ARCHITREND ZERO

手間なし積算編

1 手間なし積算 ______________ 2

1-1 手間なし積算の概要 ____________ 2

1-2 図面データの確認 ______________ 3

1-3 自動集計 ____________________ 4

1-4 明細の確認 ___________________ 5

1-5 初期設定の確認・変更 ___________ 8

1-6 明細の編集とテンプレート保存 _____ 9

［補足］テンプレートとマスタの関係 ___________ 12

1-7 明細の追加（計算式の組み方） _____ 13

1-8 金額の確認 ___________________ 16

1-9 データの保存 _________________ 17

1-10 見積書の作成 ________________ 18

A：ARCHITREND 見積を使って見積書を作成する _18

B：Excel を使って見積書を作成する ___________ 20

2 リフォーム積算 _____________ 22

2-1 リフォーム積算の概要 __________ 22

2-2 計画物件の作成 _______________ 23

2-3 計画図の編集 _________________ 25

2-4 計画図にリフォーム指示を入力 _____ 26

2-5 参照現況図に解体指示を入力 _______ 28

2-6 リフォーム積算 _______________ 30

福井コンピュータアーキテクト株式会社

1 手間なし積算

手間なし積算は、平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図のデータを入力するだけで積算できるプログラムです。手間なし積算で仕上、建具、部品などを自動集計し、見積書を作成してみましょう。

1-1 手間なし積算の概要

手間なし積算の基本的な流れ

次のフロー図は、手間なし積算の基本的な流れと、本マニュアルでの各項目の解説内容を示したものです。

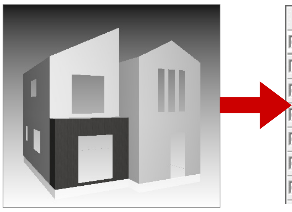
	項目	解説
	仕上・部屋などマスタの確認	平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図の入力前に、仕上マスタや部屋マスタ、3D カタログマスタなどを確認します。
	平面図などの基本データの入力	設定したマスタを使って、平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図のデータを入力します。 ※ 本書では、「1_手間なし積算（解説用）.fcbz」を使って解説します。
P.4	手間なし積算で自動集計	平面図などで入力したデータをもとに、手間なし積算で仕上や建具、部品などを自動集計します。
P.5	明細の確認・編集	集計結果を確認し、単価が未設定の項目や足りない項目など集計内容を変更します。
P.11	テンプレートの保存・再集計	集計データを変更したときは、テンプレートに保存して再集計します。 ※ テンプレートの作成・更新が必要な場合のみ操作します。
P.18	見積書の作成	本書では、ARCHITREND 見積と Excel 見積を使って、見積書を作成して印刷する操作を解説します。

集計対象のデータ

手間なし積算では、平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図、基礎伏図のデータから仕上などの数量を自動集計します。
単価は、手間なし積算で設定します。

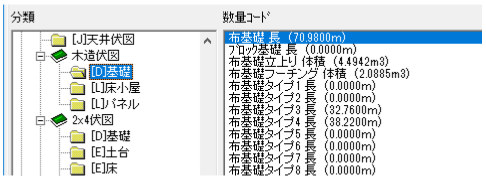
例）外壁仕上の場合

⇒ 自動集計されるデータについては、ヘルプ参照



基礎伏図のデータがある場合

木造基礎伏図または 2×4 基礎伏図に基礎（べた基礎や布基礎など）が入力されている場合は、布基礎の長さなどの値（数量コード）を計算式に組むことで、求めたい数量を算出することができます。



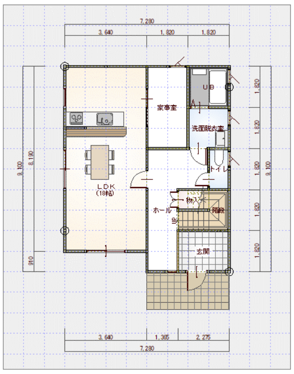
1-2 図面データの確認

平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図を開いて、各データがきちんと入力されているかを確認しましょう。

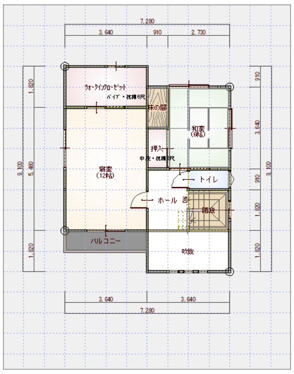
※ 本書では、出荷標準のマスタを使って、次の図面を作成したものとして解説します。 【使用データ】: 1_手間なし積算（解説用）.fcbz

平面図・屋根伏図・天井伏図を確認する

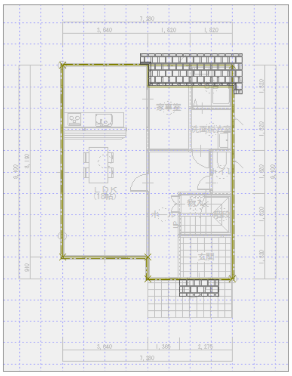
平面図、屋根伏図、天井伏図の各階を開いて、データを確認しましょう。



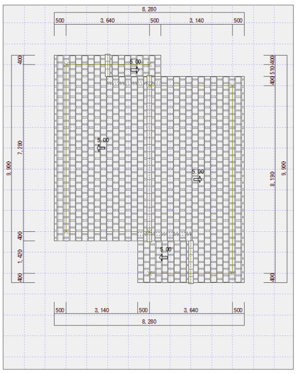
【1 階 平面図】



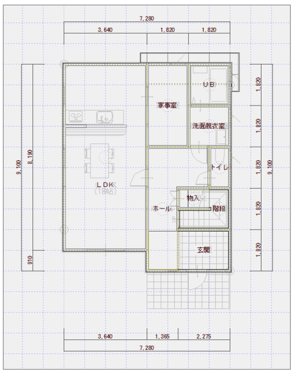
【2 階 平面図】



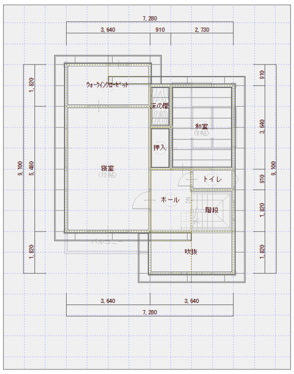
【1 階 屋根伏図】



【2 階 屋根伏図】



【1 階 天井伏図】



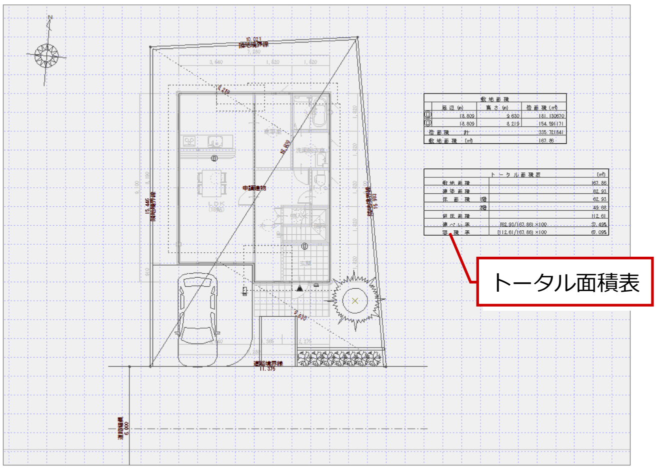
【2 階 天井伏図】

配置図を確認する

配置図を開いて、データを確認しましょう。

※ 集計に使用する配置図の面は、手間なし積算の専用初期設定または集計時の詳細設定で指定できます。

また、建築面積求積図、床面積求積図を入力して、トータル面積表を配置しておきましょう。



【配置図（1 面）】

トータル面積表を入力しておくと

トータル面積表の敷地面積や建築面積、施工床面積などの数量コードを使って、手間なし積算で数量を算出できます。
例えば、敷地面積の数量は、敷地データからは算出できません。トータル面積表が必要になります。
出荷時の標準テンプレートでは、「仮設工事」の「水盛り・遣方」や「養生費」などの明細において、トータル面積表の数量コードを使用しています。

1-3 自動集計

平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図のデータをもとに、手間なし積算で仕上、建具、部品などを自動集計しましょう。

手間なし積算を起動する

❶「処理選択」ダイアログの「積算」タブをクリックします。

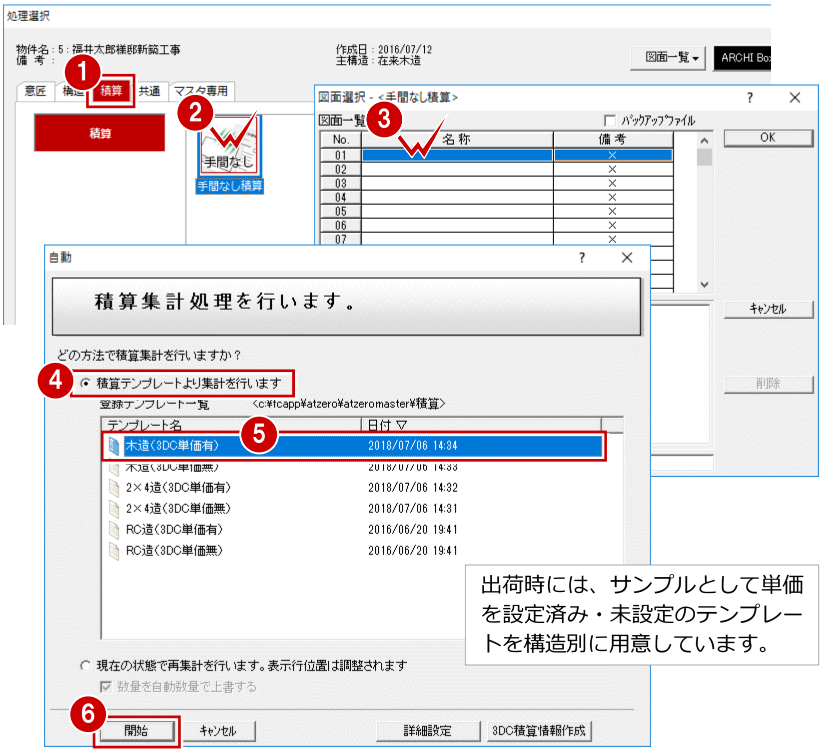
❷「手間なし積算」をダブルクリックします。

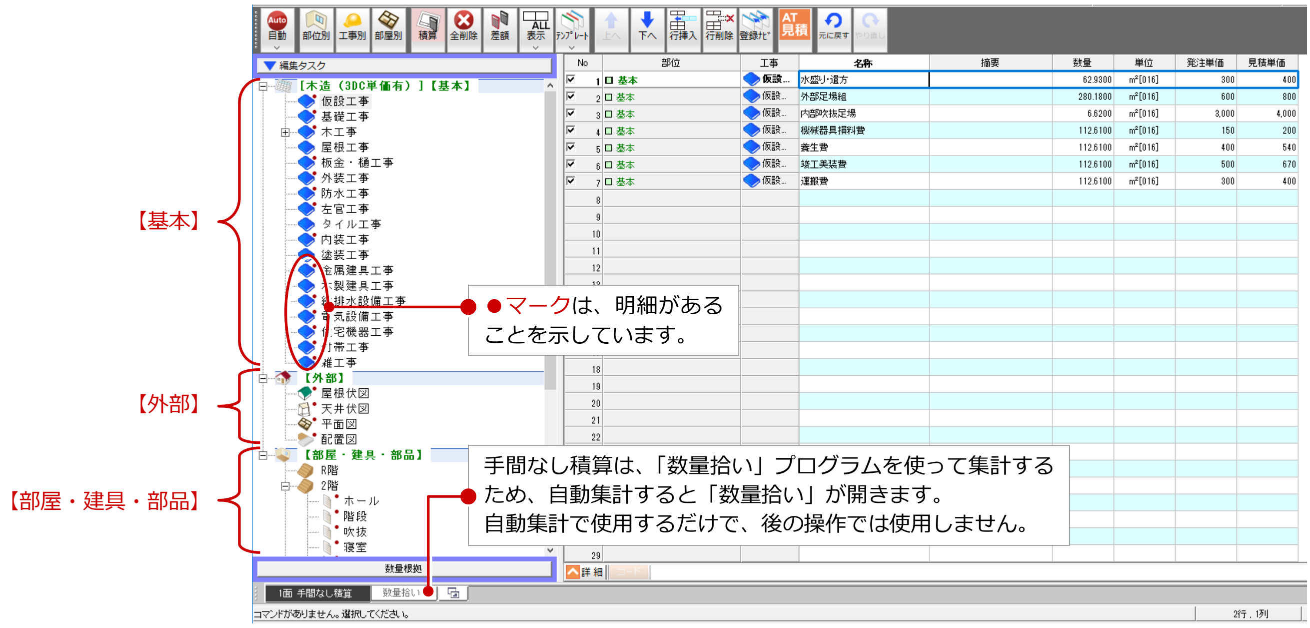
❸「図面選択」ダイアログで「No.01」をダブルクリックします。

❹「自動」ダイアログで「積算テンプレートより集計を行います」にチェックが入っていることを確認します。

❺ 使用する積算テンプレートを選びます。ここでは、「木造（3DC 単価有）」を選びます。

❻「開始」をクリックします。集計が終了すると、ツリーパネルの各部位ごとに積算項目が表示されます。

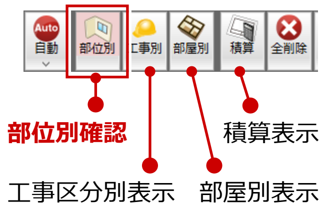




ツリー	自動集計の有無	説明
【基本】	△ 図面から 自動集計されない	工事区分を作成する場所です。部屋線外部長、軒高など、その数量の根拠となるものから計算式を組むことで、図面にないデータも集計できます。これをテンプレートに保存しておくことで、次回から集計可能となります。
【外部】	○ 図面から 自動集計される	「平面図」「屋根伏図」などの図面に分類し、図面で入力されている外壁仕上、バルコニー、ポーチ、屋根など外部データを自動集計する場所です。
【部屋・建具・部品】	○ 図面から 自動集計される	階別・部屋別に分類し、内壁仕上、腰壁、巾木、床仕上、天井仕上、建具、部品など部屋内部データを自動集計する場所です。

1-4 明細の確認

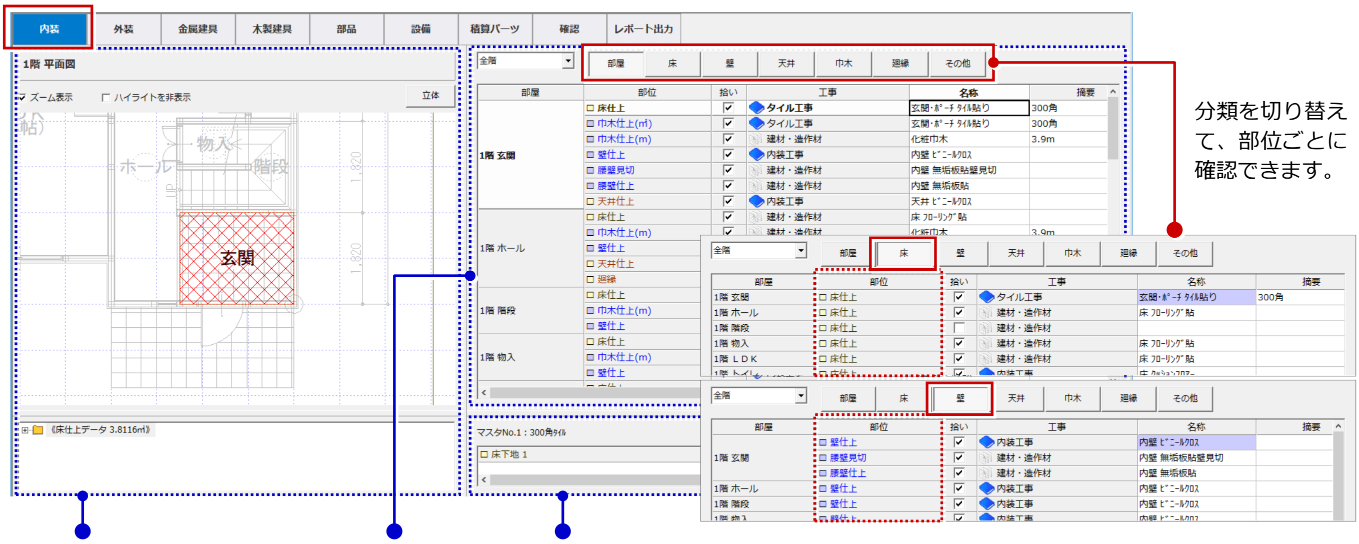
「部位別確認」に表示を切り替えて、自動集計された明細項目や数量根拠を確認してみましょう。



部位別確認	【外部】【部屋・建具・部品】の明細項目を内装、外装、金属建具などの部位別に表示します。諸経費の設定や明細の Excel 出力も可能です。
工事区分別表示	【基本】【外部】【部屋・建具・部品】を集約して工事区分別に表示します。工事ごとの金額や利益率を確認できます。
部屋別表示	【基本】【外部】を集約して工事区分別に表示します。工事ごとの金額や利益率を確認できます。
積算表示	【基本】【外部】【部屋・建具・部品】の各部位ごとに積算項目を表示します。工事区分の追加、移動、削除、名称変更や、明細項目の編集が可能です。

内装を確認する

「内装」では、各部屋の仕上データが表示されます。「床」「壁」「天井」などを切り替えて、部位ごとにまとめて確認できます。

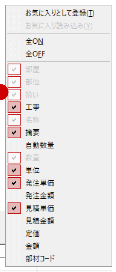


分類を切り替えて、部位ごとに確認できます。

根拠表示ビュー
メイン部位ビューで選択しているデータの根拠を表示します。

メイン部位ビュー
集計した明細項目を部位ごとに表示します。

サブ部位ビュー
下地や手間賃など、メイン部位に付随するデータを表示します。



項目部分を右クリックすると、表示する明細項目を変更できます。
表示したい項目にチェックを付けます。

－ 数量根拠を確認する －

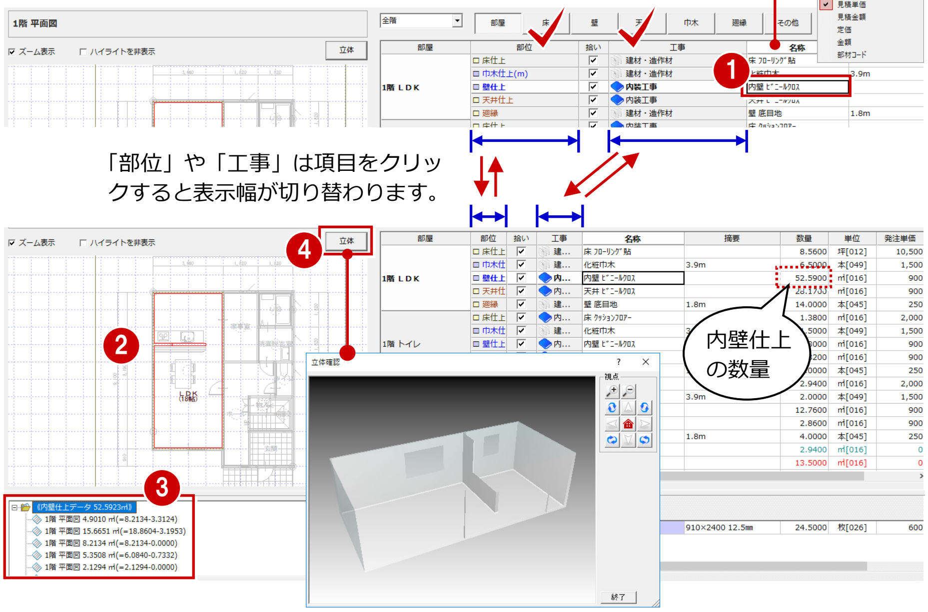
LDK の内壁を例に、数量の根拠を確認してみましょう。

❶ 1階 LDKの壁仕上のセルをクリックします。

❷ 根拠表示ビューの平面モニタで、選択した項目の集計元となるデータが赤く表示されます。

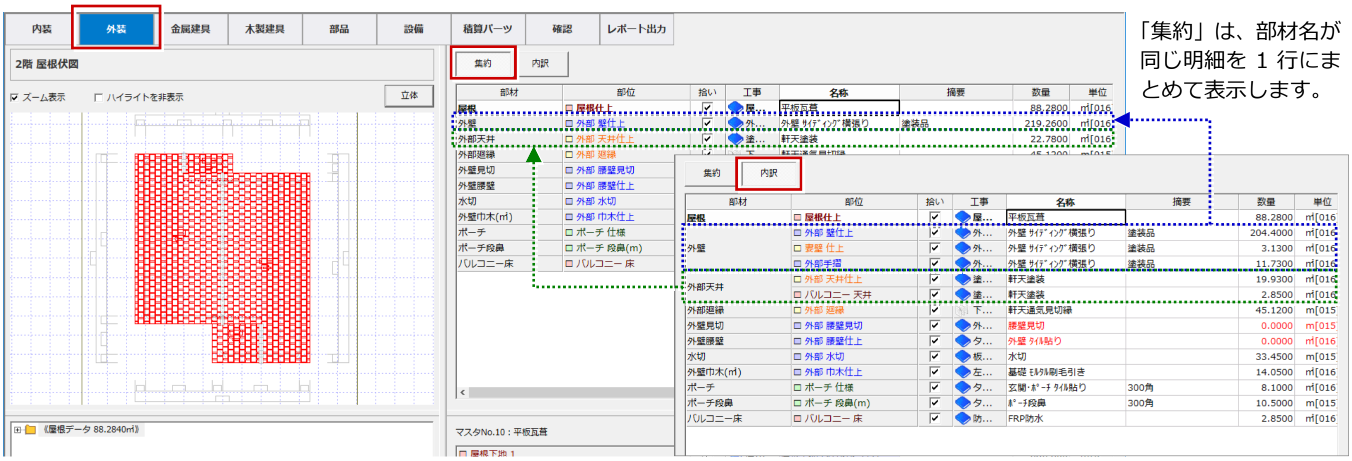
❸ 下のツリーには、数量根拠となる面積（建具開口を除く）が表示されます。

❹「立体」をクリックすると、対象データを立体で確認できます。



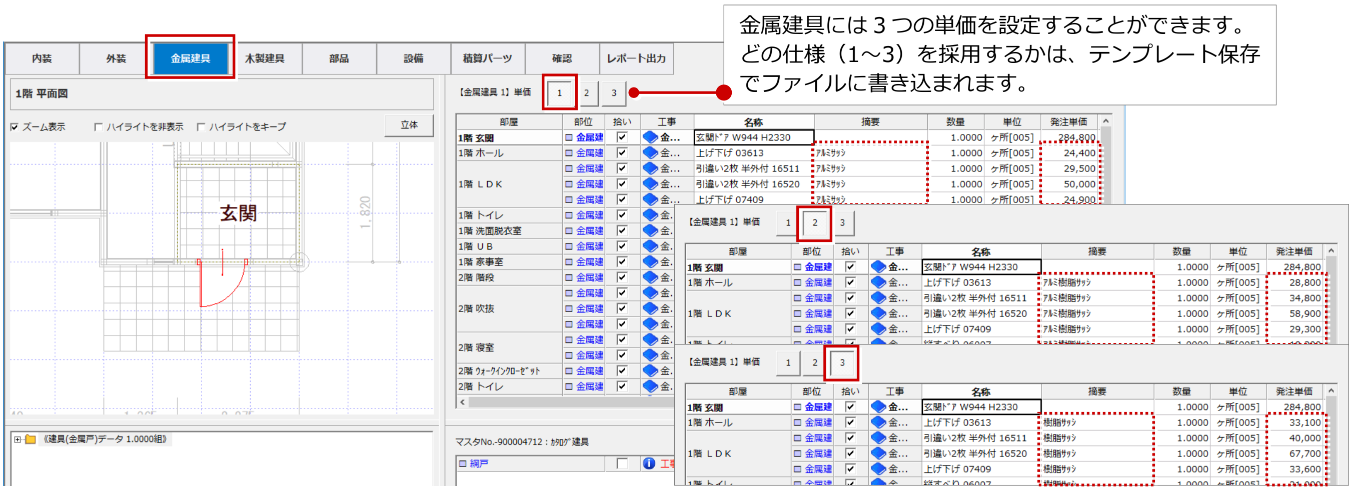
外装を確認する

「外装」では、外部の仕上データが表示されます。「内訳」をクリックすると、同一部材に集約されている部位を確認できます。



金属建具を確認する

「金属建具」では、玄関ドアやサッシなど金属製建具のデータが表示されます。「1」「2」「3」ボタンで、どの仕様を採用するか選択します。



木製建具を確認する

「木製建具」では、室内ドアなど木製建具のデータが表示されます。

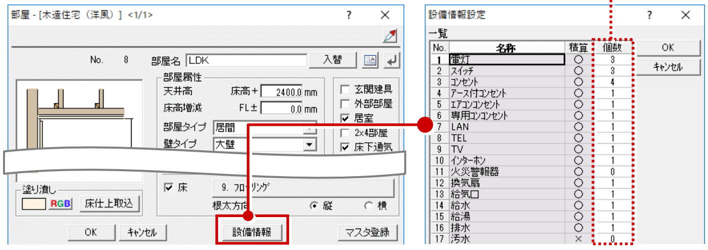
部品を確認する

「部品」では、システムキッチンや便器などの部品データが表示されます。「部屋」～「屋根」の分類を切り替えて確認します。

設備を確認する

「設備」では、部屋の設備情報に設定されている電灯やコンセントなど設備機器の個数が表示されます。この画面で個数を変更できます。　※ 部屋の設備情報に逆連動はしません。

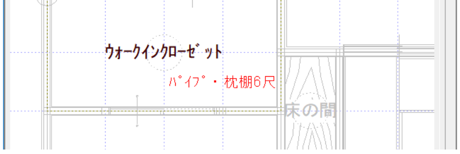
平面図の部屋属性にある「設備情報」で設定した設備の個数が連動します。設備の名称や個数の初期値は、部屋マスタで設定します。



積算パーツを確認する

「積算パーツ」では、平面図や配置図などで入力した積算パーツのデータが表示されます。「部屋」～「配置」の分類を切り替えて確認します。

右上の●マークは、明細があることを示しています。



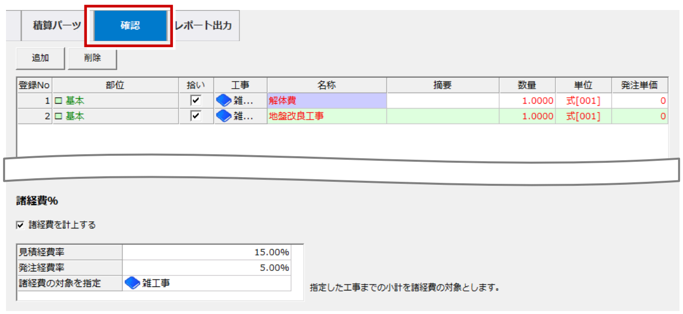
積算パーツとは

拾いたい項目のシンボルが用意されていない場合や、同じシンボルでもサイズによって金額が変わる場合などに、CAD 図形を持った積算パーツを図面に入力することで、手間なし積算にて集計できます。
積算の単位として個数、長さ、面積、体積を選択でき、図形や文字列も登録できる汎用性の高い積算用の部品です。
※ 本書の物件には、ハンガーパイプと押入段の積算パーツを入力してあります。

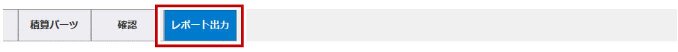
確認／レポート出力

「確認」では、ブックマーク登録した工事明細が表示されます。数量の確認が必要な明細や、変更の可能性がある明細などを登録しておくことで、チェック漏れを防ぐことができます。ブックマークには、【基本】の工事明細を 30 件まで登録可能です。

また、工事区分別表示のツリーに表示する諸経費と合計を設定できます。　⇒ P.16 参照



「レポート出力」では、「内装」～「積算パーツ」のセル内容を Excel データに出力できます。他部署や取引業者とデータを共有する際などにお使いください。

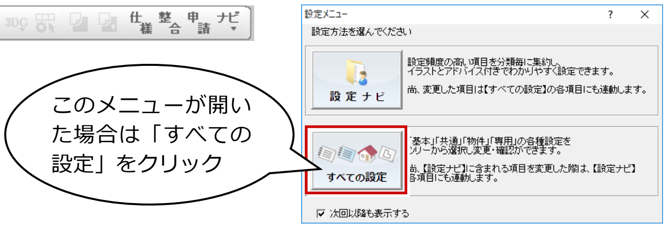


1-5 初期設定の確認・変更

「専用初期設定」ダイアログで、自動集計や画面表示の条件などの設定を確認しておきましょう。
設定を変更した場合は、再度自動集計を実行します。

専用初期設定を確認する

❶「設定」をクリックします。

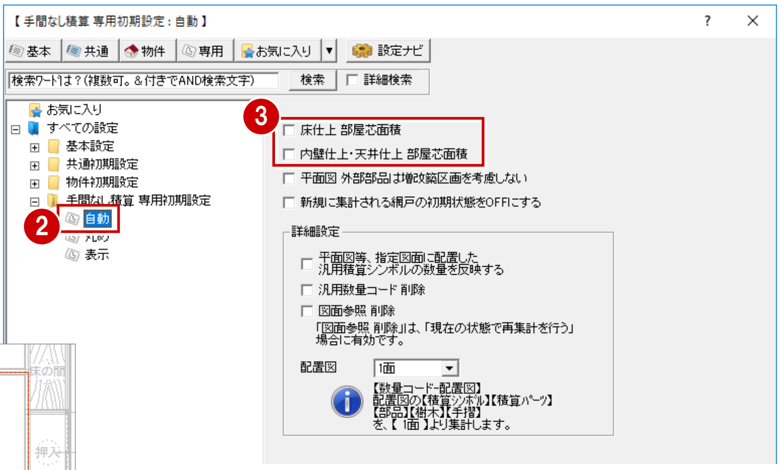


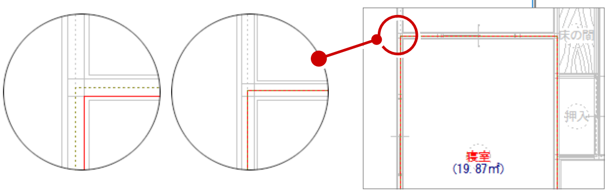
－ 自動集計の条件を確認する －

❷ ツリーから「自動」を選びます。

❸「床仕上 部屋芯面積」「内壁仕上・天井仕上 部屋芯面積」で、仕上面積の集計条件を確認します。

OFF	実際の面積（有効面積）で算出します。
ON	部屋芯で算出します。



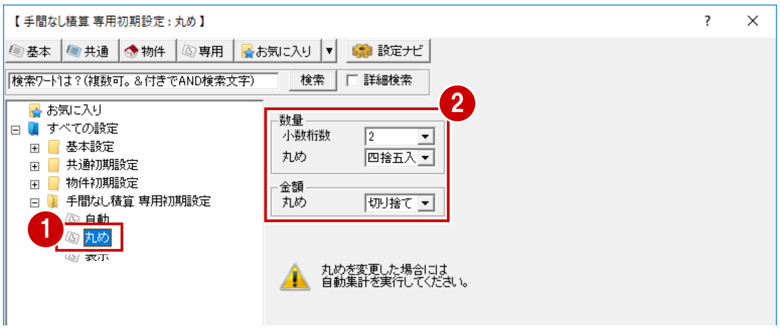


【OFF の場合】　【ON の場合】

－ 数量・金額の丸めを確認する －

❶ ツリーから「丸め」を選びます。

❷ 自動数量・数量の小数桁数（0～4）と丸め方法、および明細項目の金額（数量×単価）の丸め方法を確認します。



－ 画面表示の条件を確認する －

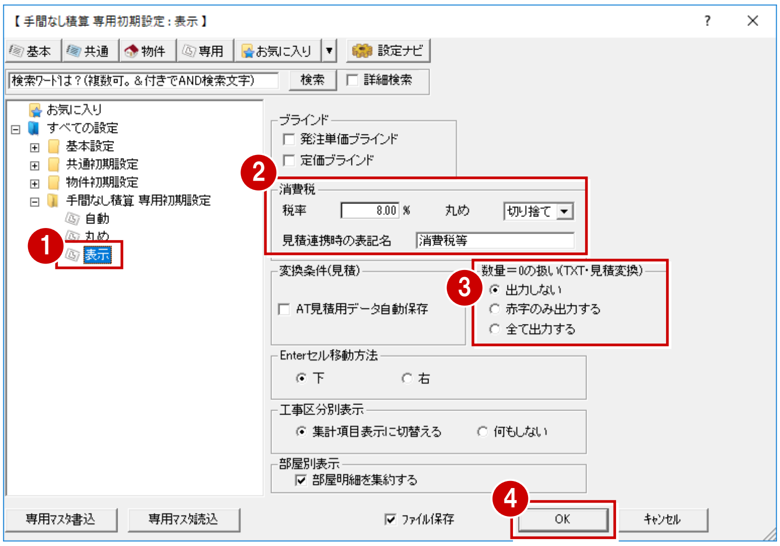
❶ ツリーから「表示」を選びます。

❷ 消費税の税率と丸め方法を確認します。

❸ 見積出力時に、数量が 0 の項目をどう扱うか確認します。

出力しない	数量が 0 の明細行はすべて出力しません。
赤字のみ出力する	文字色が赤色の明細行は出力し、灰色の明細行は出力しません。
全て出力する	文字色が赤色や灰色の明細行もすべて出力します。

❹「OK」をクリックします。

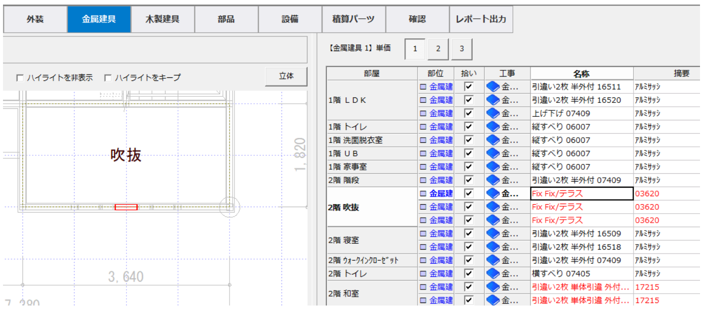


1-6 明細の編集とテンプレート保存

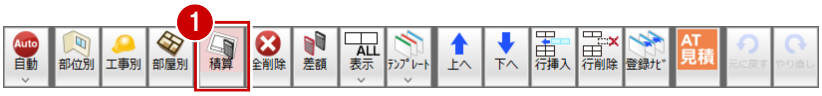
明細や単価が未入力のものをいくつか修正し、これをテンプレートに保存してみましょう。
さらに、その更新したテンプレートを使って再集計し、テンプレートの役割を確認してみましょう。

ここでは、２階吹抜と２階和室の金属建具に、単価が未入力で赤字になっているものがあるため、単価を設定しましょう。

※「部位別確認」ではテンプレート保存のコマンドが使用できないため、「積算表示」に切り替えて操作します。



2 階吹抜の明細を変更する



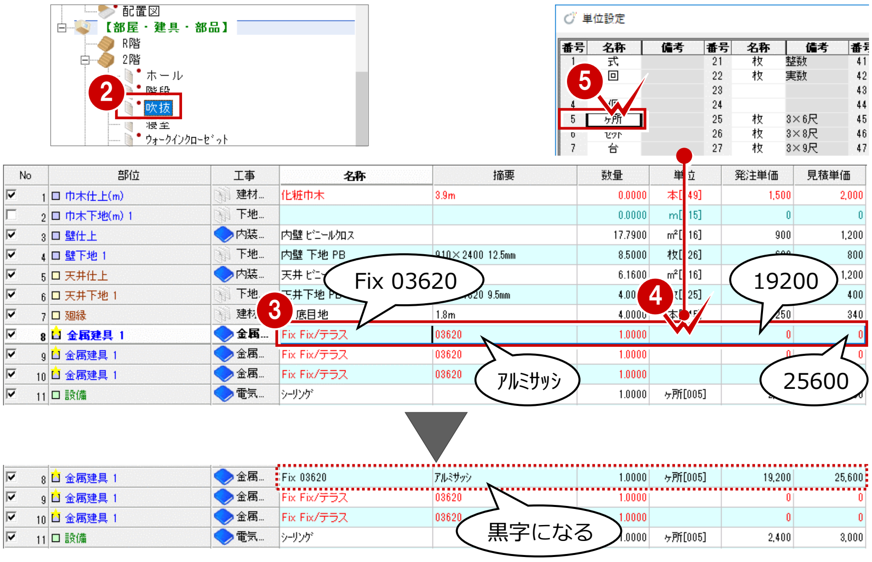
1「積算」をクリックします。

2 ツリーから【部屋・建具・部品】の２階にある「吹抜」を選びます。

3 Fix のセルに、次のように入力します。
「名称」：Fix 03620
「摘要」：ｱﾙﾐｻｯｼ
「発注単価」：19200
「見積単価」：25600

4「単位」セルをダブルクリックします。

5「単位設定」ダイアログから、番号５の「ケ所」をダブルクリックして選択します。



明細の表示色・マークについて

セルで表示される集計項目の表示色やマークは、次の内容を表します。

積算しない項目は「No」のチェックをはずします。

図面から集計された明細がテンプレートに存在しない項目には、「部位」に★マークが表示されます。

黒色	テンプレートに項目と単価が設定されていて、図面から数量も集計されているとき、黒色になります。
赤色	「数量」「見積単価」のどちらかの項目が０のとき、赤色になります。
灰色	テンプレートに項目が存在するが、図面には配置されていないため集計されなかった項目は、灰色になります。
緑色	「No」のチェックがはずれているとき、緑色となり、取り消し線が表示されます。合計金額にも入りません（積算対象外）。

※【基本】では、数量が０や単価が未入力（０円）の項目の文字は赤色になります。
【外部】【部屋・建具・部品】では、数量が０のものは、図面にデータがないため文字が灰色になり、単価が未入力（０円）のときのみ赤色になります。

2 階和室の明細を変更する

２階和室には、同じ内障子付き引違い窓が２組あり、単価が未入力になっています。ここでは、掛率を使って見積単価を設定しましょう。また、網戸を積算対象外に変更してみましょう。

－ 名称などを変更する －

❶ ツリーから２階の「和室」を選びます。

❷ 引違いの明細を、次のように編集します。

「名称」: 引違い２枚 外付 17215

「摘要」: ｱﾙﾐｻｯｼ

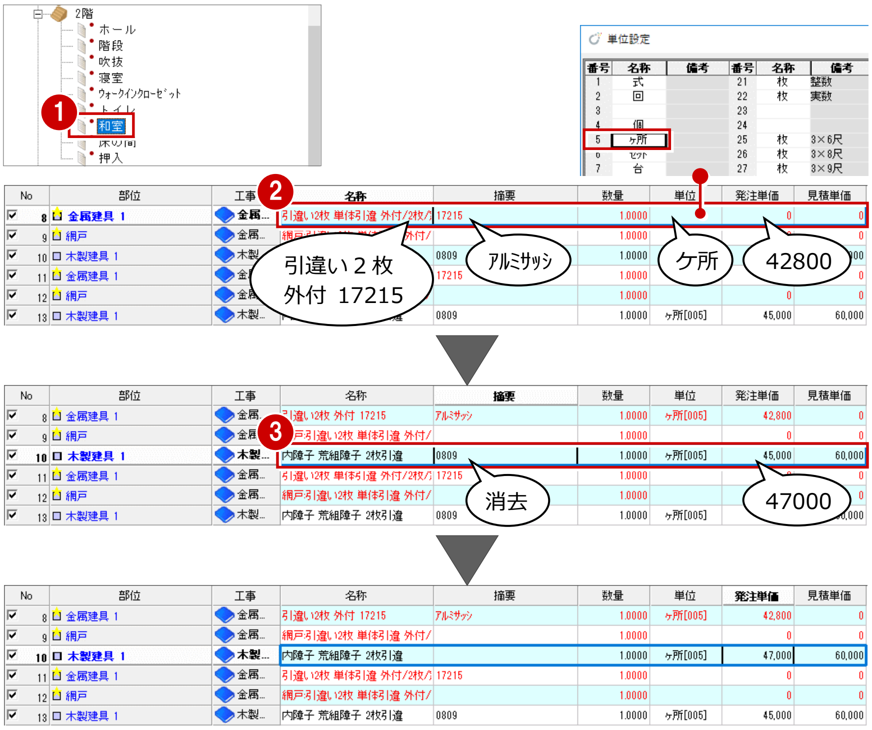
「単位」: ケ所「005」

「発注単価」: 42800

❸ 内障子の明細を、次のように編集します。

「摘要」: なし（消去）

「発注単価」: 47000



－ 掛率を使って単価を設定する －

❶ 引違いから内障子までの「見積単価」セルをドラッグして選択します。

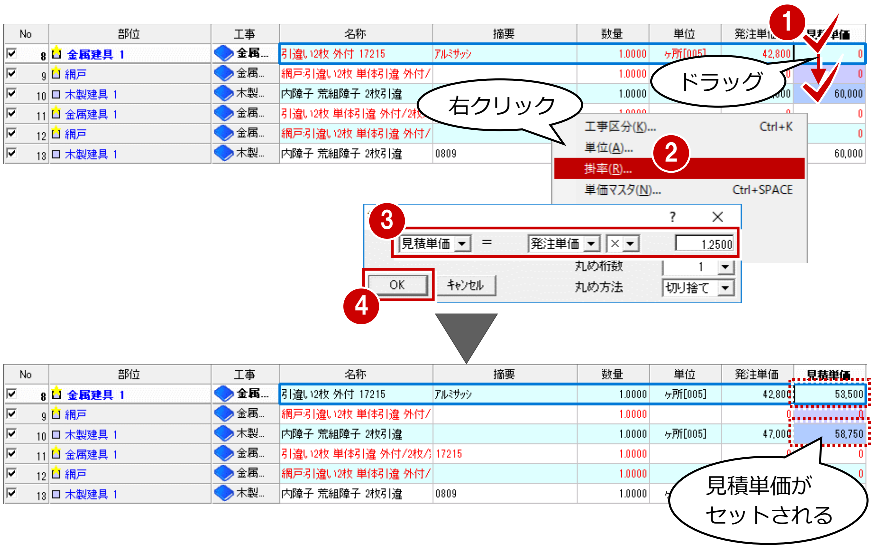
❷ 右クリックして「掛率」を選びます。

❸「掛率」ダイアログで、次のように計算式を変更します。

見積単価 ＝ 発注単価 × 1.25

❹「OK」をクリックします。

※「集計項目表示」が「全表示」（⇒ P.17）以外のときは、「掛率」を選択できません。



－ 積算の有無を変更する －

❶ 網戸の明細を選択します。

❷「No」のチェックをはずします。網戸が積算対象外になります。

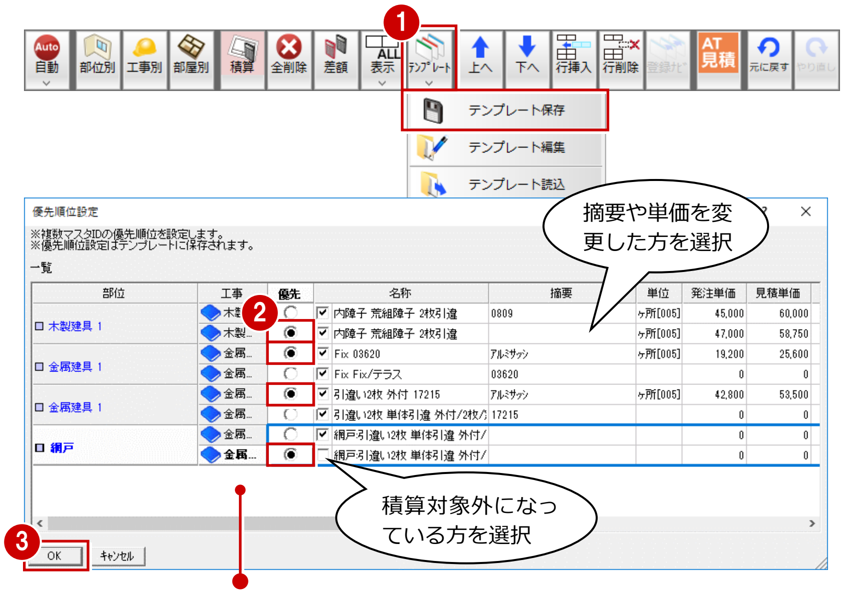
テンプレートに保存する

変更した明細を次回からも使用できるようにテンプレートに保存します。

❶「テンプレート」メニューから「テンプレート保存」を選びます。
同じ建具において、異なる明細や単価が存在するため、「優先順位設定」ダイアログが開きます。

❷ テンプレートに保存する方の明細を選びます。
ここでは、内障子の単価を変更した側、網戸が積算対象外になっている側の「優先」にチェックを入れます。残りは、単価が設定されている側にします。

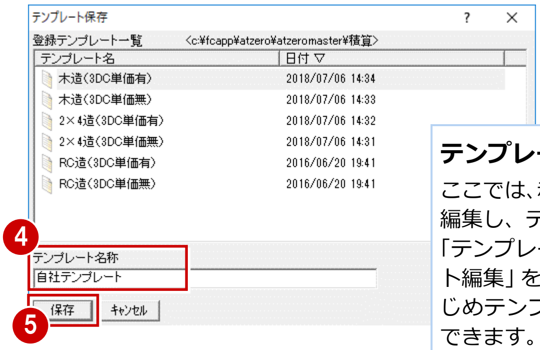
❸「OK」をクリックします。



吹抜の Fix や和室の内障子付き引違い窓は、同じ建具が複数ある中の 1 つだけ明細を変更したため、同じ建具で 2 つの積算情報が存在しています。1 つの明細に複数の積算情報をテンプレートに保存できないため、どちらの積算情報をテンプレートに保存するかを選択します。

❹「テンプレート保存」ダイアログの「テンプレート名称」を入力します。
ここでは「自社テンプレート」とします。

❺「保存」をクリックします。



テンプレート編集
ここでは、赤字で集計された明細に対して編集し、テンプレートに保存しましたが、「テンプレート」メニューの「テンプレート編集」を使用して、必要な項目をあらかじめテンプレートに登録しておくこともできます。

再集計する

保存した自社テンプレートを使って、再集計します。

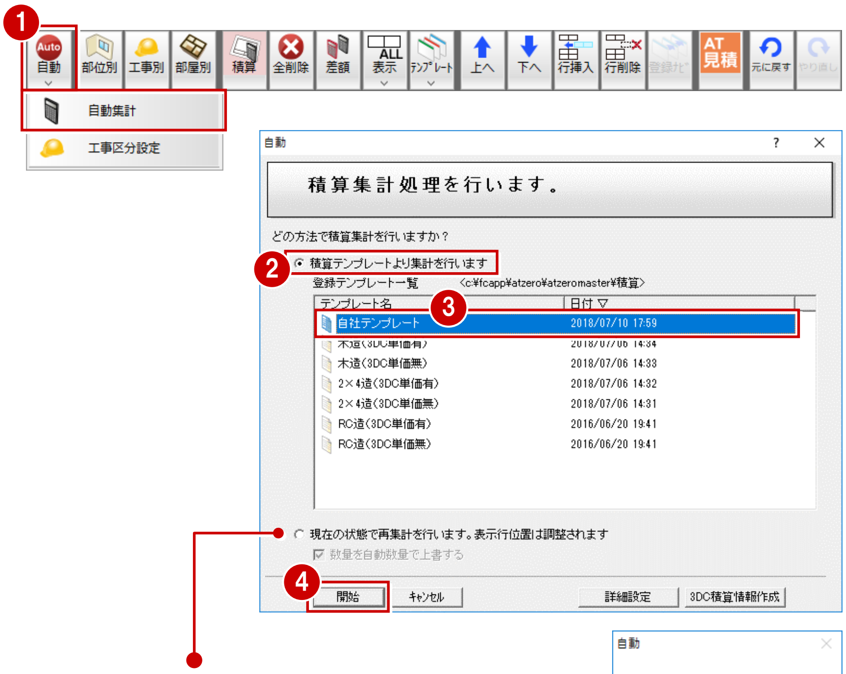
❶「自動」メニューから「自動集計」を選びます。

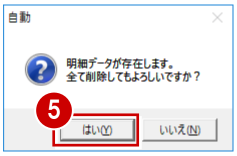
❷「積算テンプレートより集計を行います」が ON になっていることを確認します。

❸ 保存したテンプレートを選びます。

❹「開始」をクリックします。

❺ 削除の確認画面で、「はい」をクリックします。





明細項目や金額などを変更した後、図面データに変更があるため数量を集計し直したいときは、「現在の状態で再集計を行います」を使用します。明細の変更をそのまま残した状態で、新しいデータから数量を再集計できます。

このとき、「数量」を手動で変更していて「自動数量」で上書きしたくない場合は、「数量を自動数量で上書する」を OFF にすると、「自動数量」は変更されますが「数量」は元の数値のまま残ります。

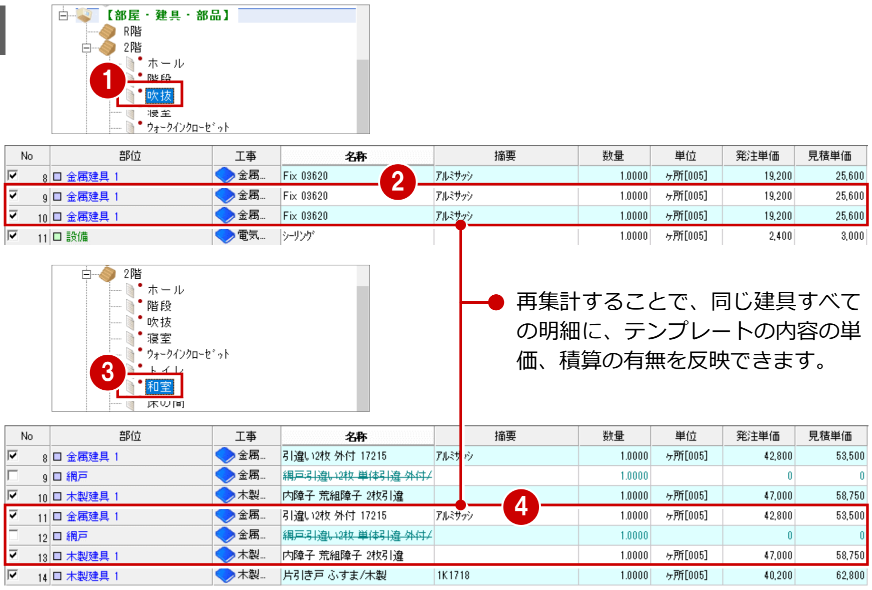
⇒「自動数量」と「数量」については、P.15 参照

集計結果を確認する

2 階吹抜の Fix や、2 階和室の引違い窓の明細を確認します。

❶❷ ツリーから 2 階の「吹抜」を選び、残りの 2 か所の Fix にも、各部位の名称や単価が入っていることを確認します。

❸❹ ツリーから 2 階の「和室」を選び、もう一方の建具の明細にも設定が反映されたことを確認します。



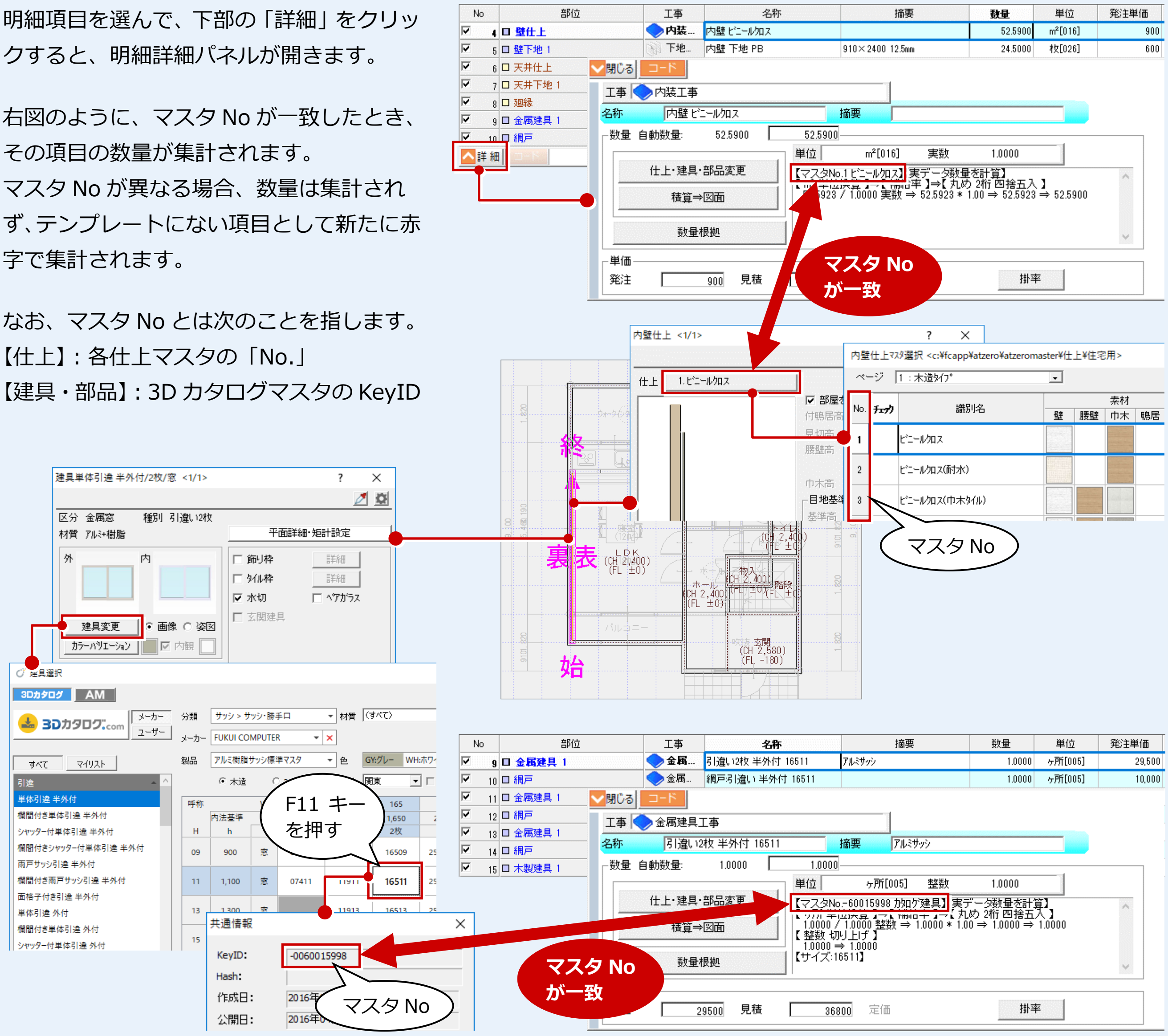
【補足】テンプレートとマスタの関係

単価が設定されていて、かつ数量が計上された状態で項目が集計されてくるには、テンプレートの明細と図面に入力されている仕上・建具・部品データのマスタ No（番号）が大きく関係しています。

明細項目を選んで、下部の「詳細」をクリックすると、明細詳細パネルが開きます。

右図のように、マスタ No が一致したとき、その項目の数量が集計されます。
マスタ No が異なる場合、数量は集計されず、テンプレートにない項目として新たに赤字で集計されます。

なお、マスタ No とは次のことを指します。
【仕上】：各仕上マスタの「No.」
【建具・部品】：3D カタログマスタの KeyID



※ 3D カタログサッシは、KeyID に加えて建具サイズが一致したとき、テンプレートの項目の数量が集計されます。

1-7 明細の追加（計算式の組み方）

計算式を使った明細項目を追加しましょう。登録ナビ機能を使う方法と明細詳細パネルから設定する方法を紹介します。

仮設工事に明細を追加する

登録ナビ機能を使って、敷地面積から草刈り費を算出する明細項目を追加してみましょう。

工事区分	名称	摘要	単位	発注単価	見積単価	計算式
仮設工事	草刈り費		㎡	150	200	【敷地 面積[ﾄｰﾀﾙ面積表]】

❶ ツリーから【基本】の「仮設工事」を選びます。

❷ 明細を追加したい位置のセルをクリックします。

❸「登録ナビ」をクリックします。

❹「積算情報登録ナビ 1/3」ダイアログで、名称や単価を次のように入力します。
　「名称」: 草刈り費
　「発注」: 150
　「見積」: 200

❺「単位」をクリックします。

❻「単位選択」ダイアログから、番号 16 の「㎡」をダブルクリックして選択します。

❼「次へ」をクリックします。

❽「積算情報登録ナビ 2/3」ダイアログで、「計算式」にチェックを入れます。

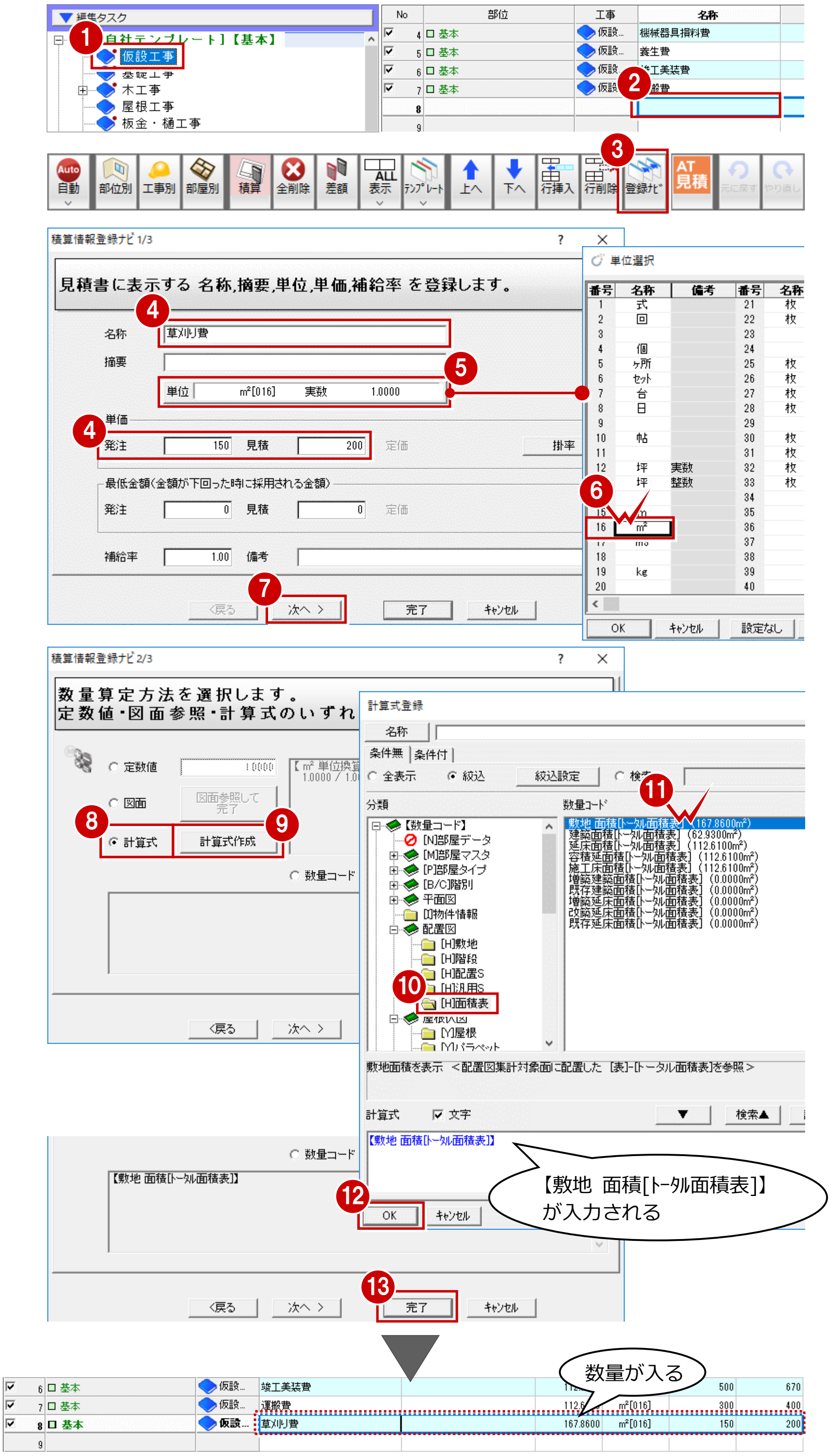
❾「計算式作成」をクリックします。
「計算式登録」ダイアログが開きます。

❿ 左側のツリーから「配置図」の中にある「[H] 面積表」を選びます。

⓫ 右側の数量コード一覧から「敷地 面積［ﾄｰﾀﾙ面積表］」をダブルクリックします。

⓬「OK」をクリックします。

⓭「完了」をクリックします。
明細が追加され、数量が入ります。



外装工事に明細を追加する

今度は、明細詳細パネルから、サッシ廻り防水テープの明細項目を設定してみましょう。
サッシの 4 周の長さ＋それぞれの端は 10 ㎝ずつ長めにすることを想定して、1 か所につき 80 ㎝長く拾う計算式とします。
また、テープは 1 巻 20m として、実データから算出される長さ（m）を本数（1 本あたり 20m）に換算してみましょう。

工事区分	名称	摘要	単位	発注単価	見積単価	計算式
外装工事	サッシ廻り防水テープ	75mm×20m	本	990	1320	【金窓(外部) (上+左+右)枠長】＋【金窓(外部) 下枠長】＋【窓建具外部 本数】＊0.8

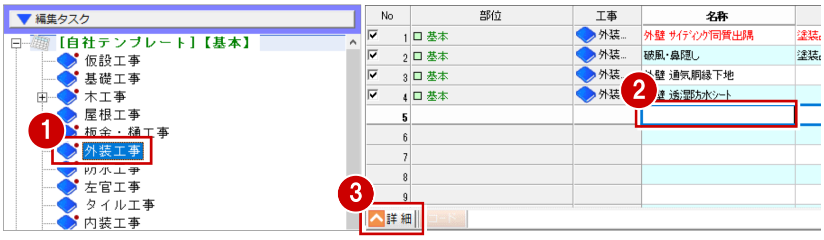
※ ここでは、例として金属窓のみで計算式を組んでいますが、実際は金属戸も必要になります。

－ 明細詳細パネルを開く －

❶ ツリーから「外装工事」を選びます。

❷ 明細を追加したい位置のセルをクリックします。

❸ セル下部の「詳細」をクリックします。



－ 計算式を組む －

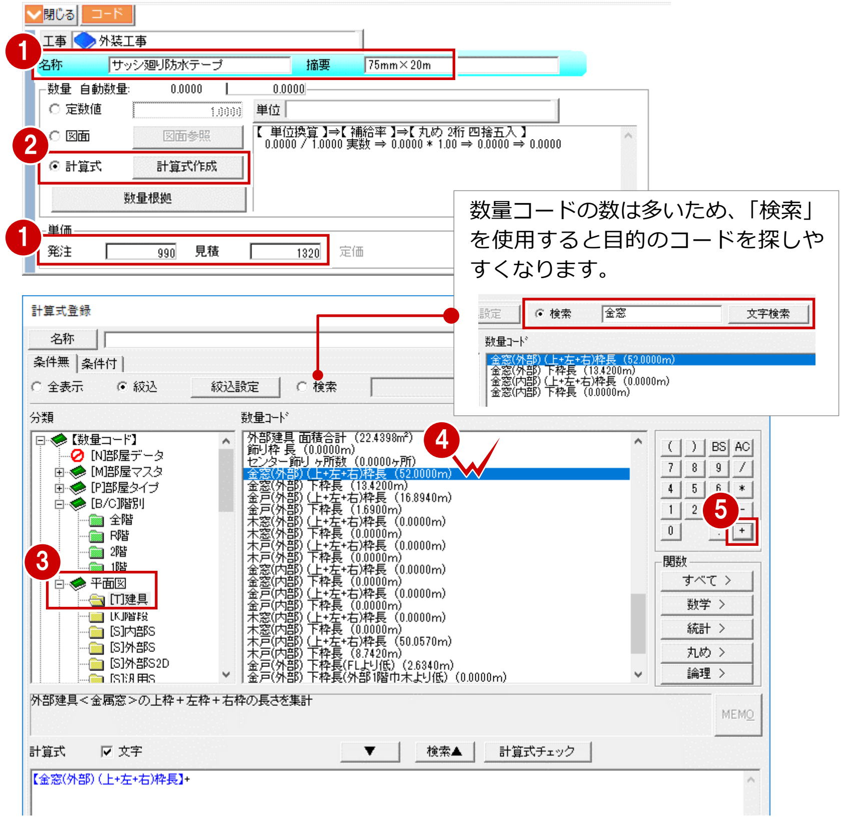
❶ 明細詳細パネルで、名称や単価を次のように入力します。
「名称」: サッシ廻り防水テープ
「摘要」: 75mm×20m
「発注」: 990
「見積」: 1320

❷「計算式」にチェックを入れて、「計算式作成」をクリックします。
「計算式登録」ダイアログが開きます。

❸ 左側のツリーから「平面図」の中にある「[T] 建具」を選びます。

❹ 右側の数量コード一覧から「金窓(外部) (上+左+右)枠長」をダブルクリックします。

❺「＋」をクリックします。
※ キーボードのテンキーでも入力できます。



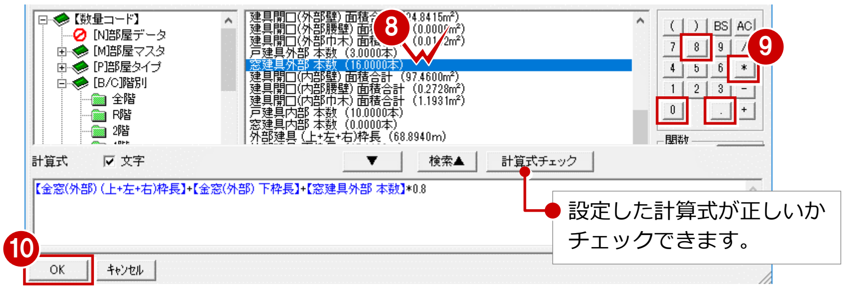
❻ 数量コード一覧から「金窓(外部) 下枠長」をダブルクリックします。

❼「＋」をクリックします。

❽ 数量コード一覧から「窓建具外部 本数」をダブルクリックします。

❾「＊」「0」「.」「8」を順にクリックします。

❿「OK」をクリックします。



－ 単位を登録する －

換算率 20 の「本」の単位を新たに登録してみましょう。

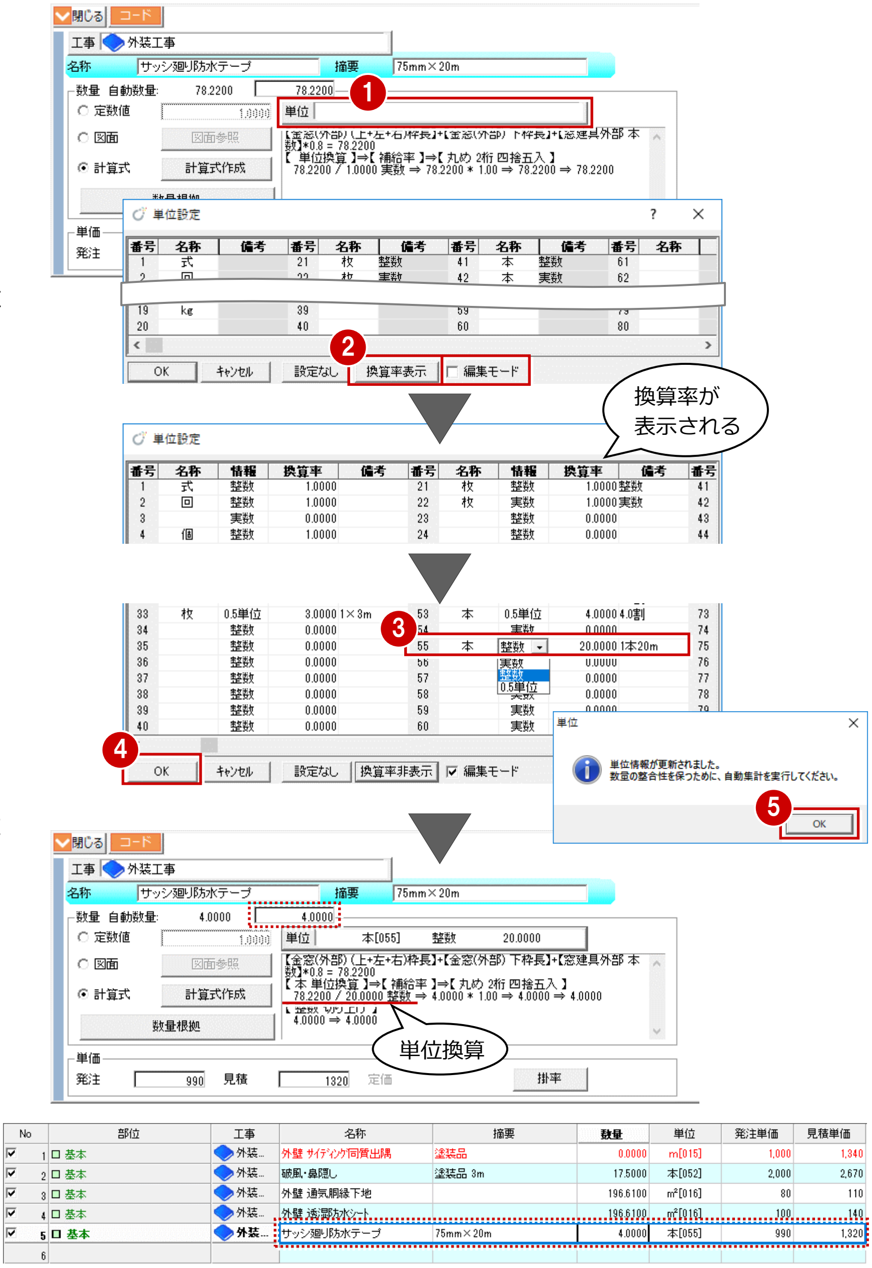
❶ 明細詳細パネルの「単位」をクリックします。

❷「単位設定」ダイアログの「換算率表示」をクリックして、「編集モード」を ON にします。

❸ 空き番号を選択して、単位の名称や換算率などを入力します。
ここでは、次のように設定します。
「名称」: 本
「情報」: 整数
「換算率」: 20
「備考」: 1 本 20m

❹ 入力できたら、「OK」をクリックします。

❺ 確認画面で「OK」をクリックします。
「数量」の数値が、換算率を考慮した値になります。



「自動数量」と「数量」

数量には 2 種類のセルがあります。

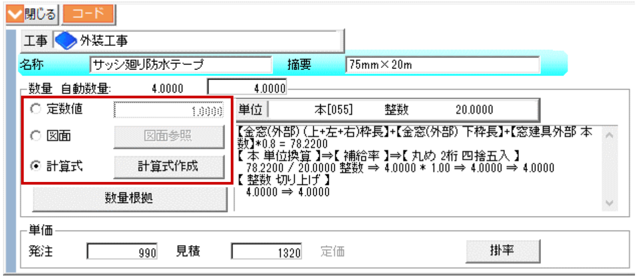
「自動数量」: 図面のデータから自動集計された数量が入ります（編集不可）。

「数量」: 自動集計直後は「自動数量」と同じ数量が入りますが、「数量」は変更できます。

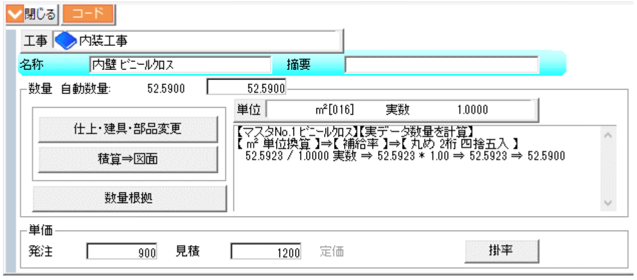
数量の算定方法

自動集計するものとしないものでは、明細詳細パネルの設定が異なります。
【外部】【部屋・建具・部品】で、図面の入力データから自動集計できるものは、下の右図のような詳細パネルになります。
一方、【基本】の項目など、図面から自動集計されないものは、明細詳細パネルに「定数値」「図面」「計算式」オプションが表示され、この 3 つの算定方法を使って求めたい数量を算出します。

定数値	固定の数量とするときに使用します。
図面	図面参照ウィンドウを利用して、図面に直接手入力して数量の根拠となる長さや面積を指定します。
計算式	「計算式登録」の数量コードを利用し、計算式から数量を求めるときに使用します。



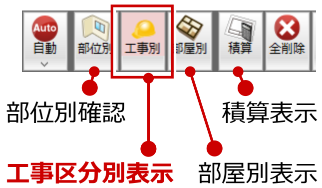
【自動集計されない場合】



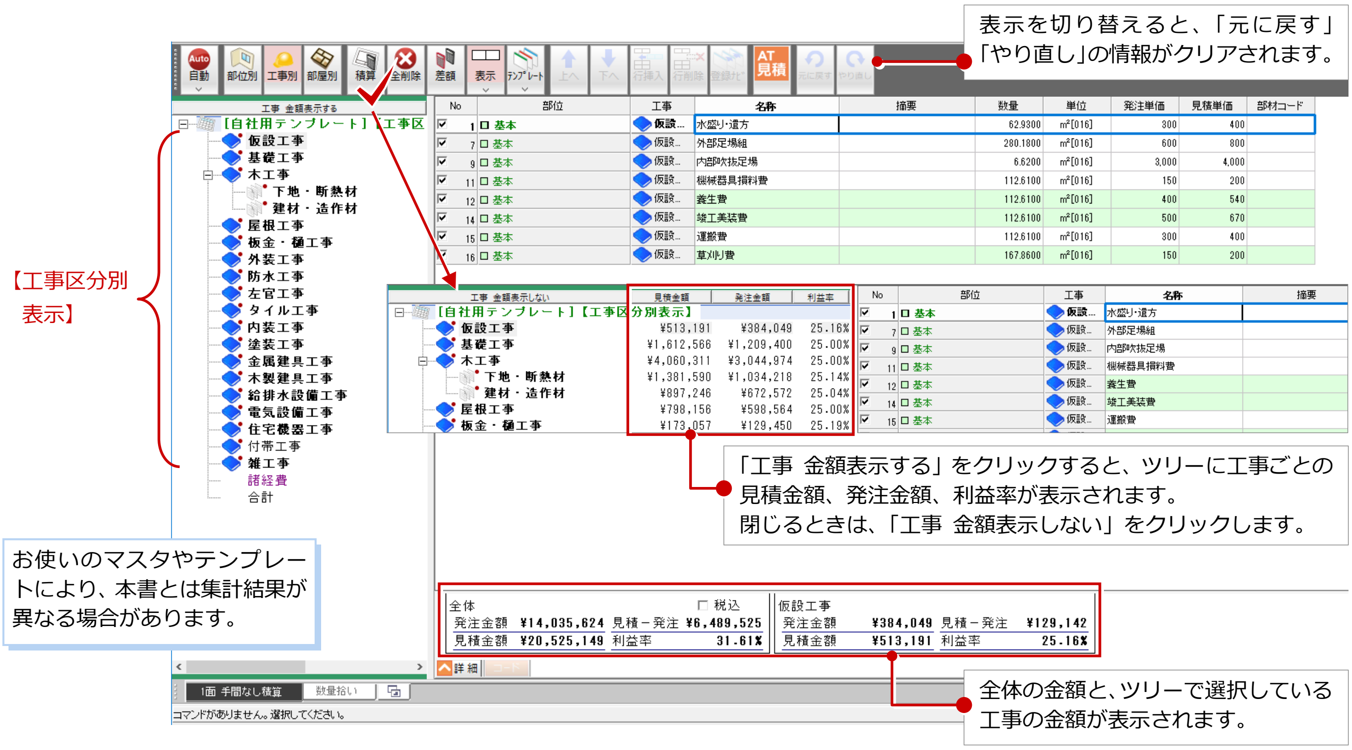
【自動集計される場合】

1-8 金額の確認

工事区分別に集計して、工事全体の発注金額、見積金額、利益率などを確認しましょう。
「工事区分別表示」では、【基本】【外部】【部屋・建具・部品】の明細が、工事区分ごとにまとめて表示されます。



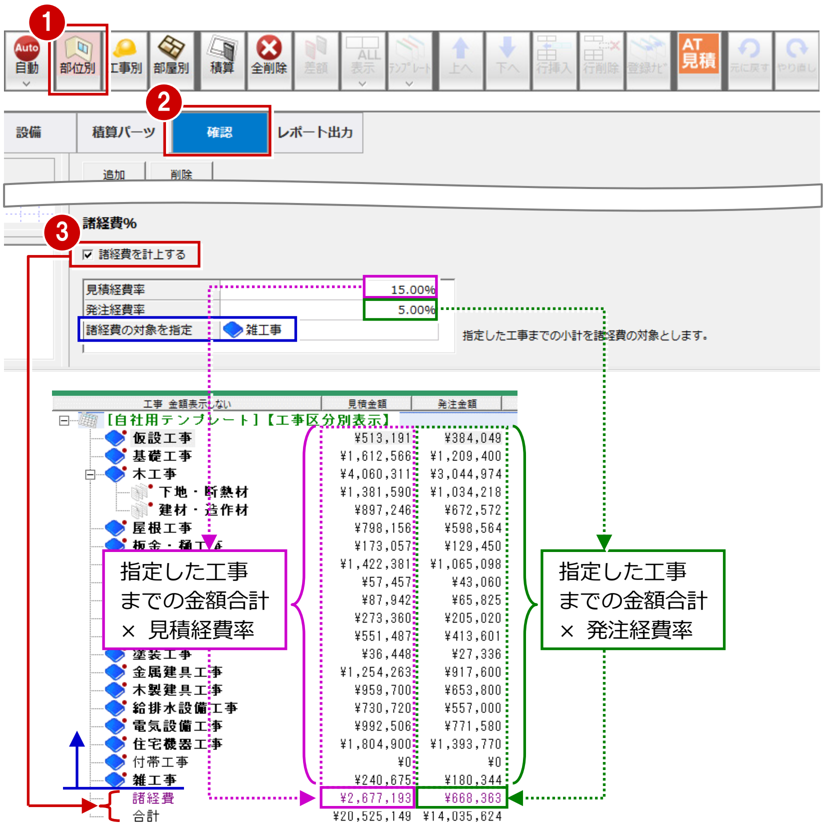
※ 名称、摘要、単位（番号）、発注単価、見積単価、定価、備考が同じものは同じ明細で集約されます。名称や金額など何か 1 つ異なると合算されません（全角、半角、空白の違いも判別します）。



諸経費を設定する

諸経費を計上するかどうかは、「部位別確認」の「確認」で設定します。

1. 「部位別」をクリックします。
2. 「確認」をクリックします。
3. 「諸経費を計上する」を ON にすると、工事区分別表示のツリーに「諸経費」と「合計」が表示されます。
   諸経費は、「諸経費の対象を指定」で指定した工事区分までの金額合計と、設定した経費率から算出されます。



1-9 データの保存

編集した明細、単価などをテンプレートに保存しておくと、次回、別物件の自動集計時にも、ここで保存したテンプレートを使用できます。1 つのテンプレートを多くの物件で使用することで、完成度の高い自社仕様のテンプレートが出来上がります。

テンプレートに保存する

P.11 で保存したテンプレートに上書き保存します。テンプレートには、単位設定や明細行の並び順も保存されます。

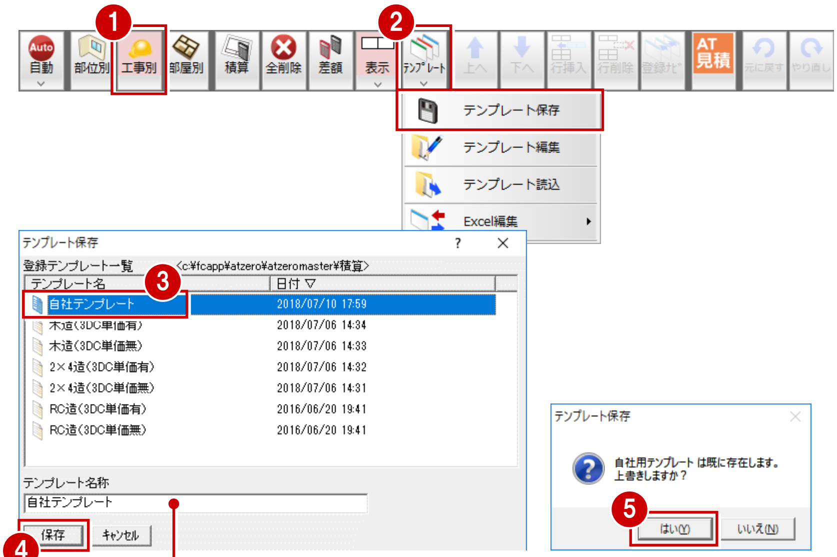
1 「工事別」をクリックします。

2 「テンプレート」メニューから「テンプレート保存」を選びます。

3 「テンプレート保存」ダイアログの一覧から上書きするテンプレートを選びます。

4 「保存」をクリックします。

5 確認画面で「はい」をクリックします。



別テンプレートとして保存する場合は、「テンプレート名称」に新しいファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

データを保存する

1 ツールバーの「上書き保存」をクリックしてデータを保存します。

集計された明細の表示を切り替えるには

セルで表示される集計項目は、数量が 0 のものは表示しないなど、表示を切り替えることができます。

全表示	全項目を表示します。数量が 0 の項目や積算対象外（「No」のチェック OFF）の項目も表示されます。
集計項目表示	集計された項目だけを表示します。 積算対象外（「No」のチェック OFF）の項目は表示されません。
0 項目表示	数量が 0 の項目と積算対象外（「No」のチェック OFF）の項目だけを表示します。
図面参照項目表示	図面を参照して、集計された項目だけを表示します。 積算対象外（「No」のチェック OFF）の項目は表示されません。

現在、選んでいるコマンドが表示されます。

※ 工事区分別表示で「行挿入」「行削除」「上へ」「下へ」などの行編集は、「全表示」のときに実行できます。

1-10 見積書の作成

集計結果を見積書にして印刷しましょう。
ここでは、次の 2 種類の方法を解説します。

（A）ARCHITREND 見積 を使って見積書を作成する

（B）手間なし積算の Excel 出力機能を使って見積書を作成する

他社の見積システムへ出力するには

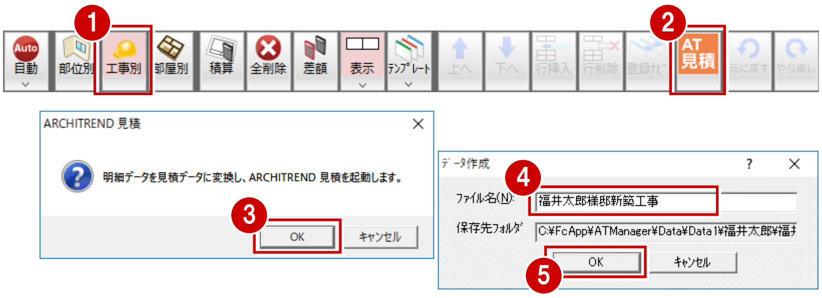
「ファイル」メニューの「TXT 書き出し」で集計データをテキストデータに出力すると、他社の見積システムで取り込むことができます。
使用する見積システムへの変換条件を選択して、テキストデータに出力します。　⇒ 詳しくは、ヘルプ参照

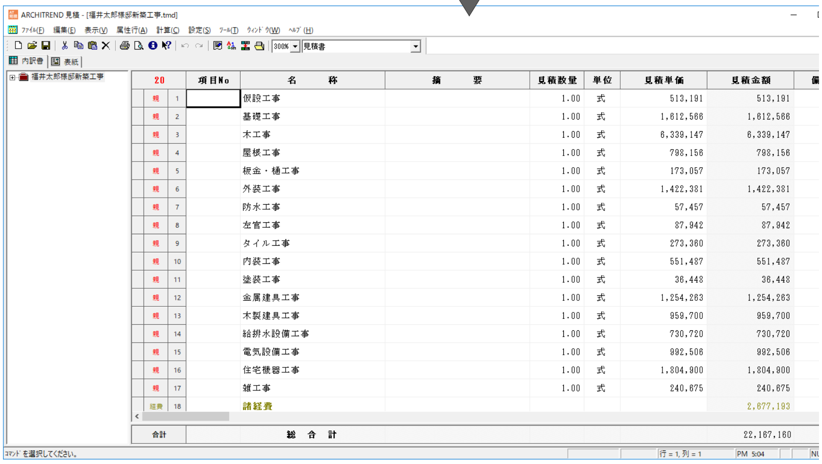
A ARCHITREND 見積を使って見積書を作成する

ここでは、ARCHITREND 見積を使って見積書を作成する操作を解説します。
※ ここからの操作には、ARCHITREND 見積 がインストールされている必要があります。

ARCHITREND 見積へ出力する

1. 見積書を作成するモード（ここでは「工事別」）を ON にします。
2. 「AT 見積」をクリックします。
3. 確認画面で「OK」をクリックします。
4. 「データ作成」ダイアログの「ファイル名」に見積書のファイル名を入力します。
5. 「OK」をクリックします。





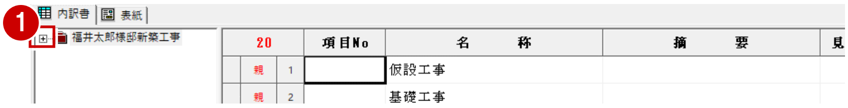
数量が 0 の項目の扱い

数量が 0 の項目も出力するかどうかは、「専用初期設定：表示」ダイアログの「数量＝0 の扱い（TXT・見積変換）」で設定します。（⇒ P.8）

変換された見積データを確認する

1. 左のツリーの「＋」をクリックして、内訳書の階層を表示します。
2. ツリーの項目をクリックすると、その項目の内訳書が右側に表示されます。
3. 各項目の内訳書を確認します。

⇒ 詳しい操作については、ARCHITREND 見積のマニュアルを参照

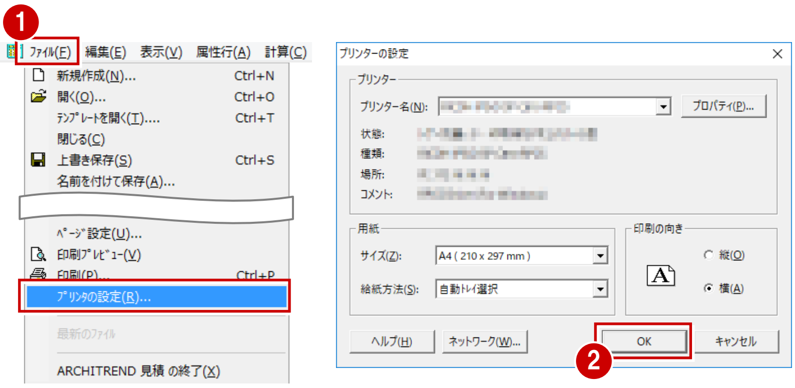


見積書を印刷する

－ プリンタを設定する －

❶「ファイル」メニューから「プリンタの設定」を選びます。

❷「プリンタの設定」ダイアログで、使用するプリンタや用紙のサイズ・向きなどを設定して、「OK」をクリックします。



－ 印刷する －

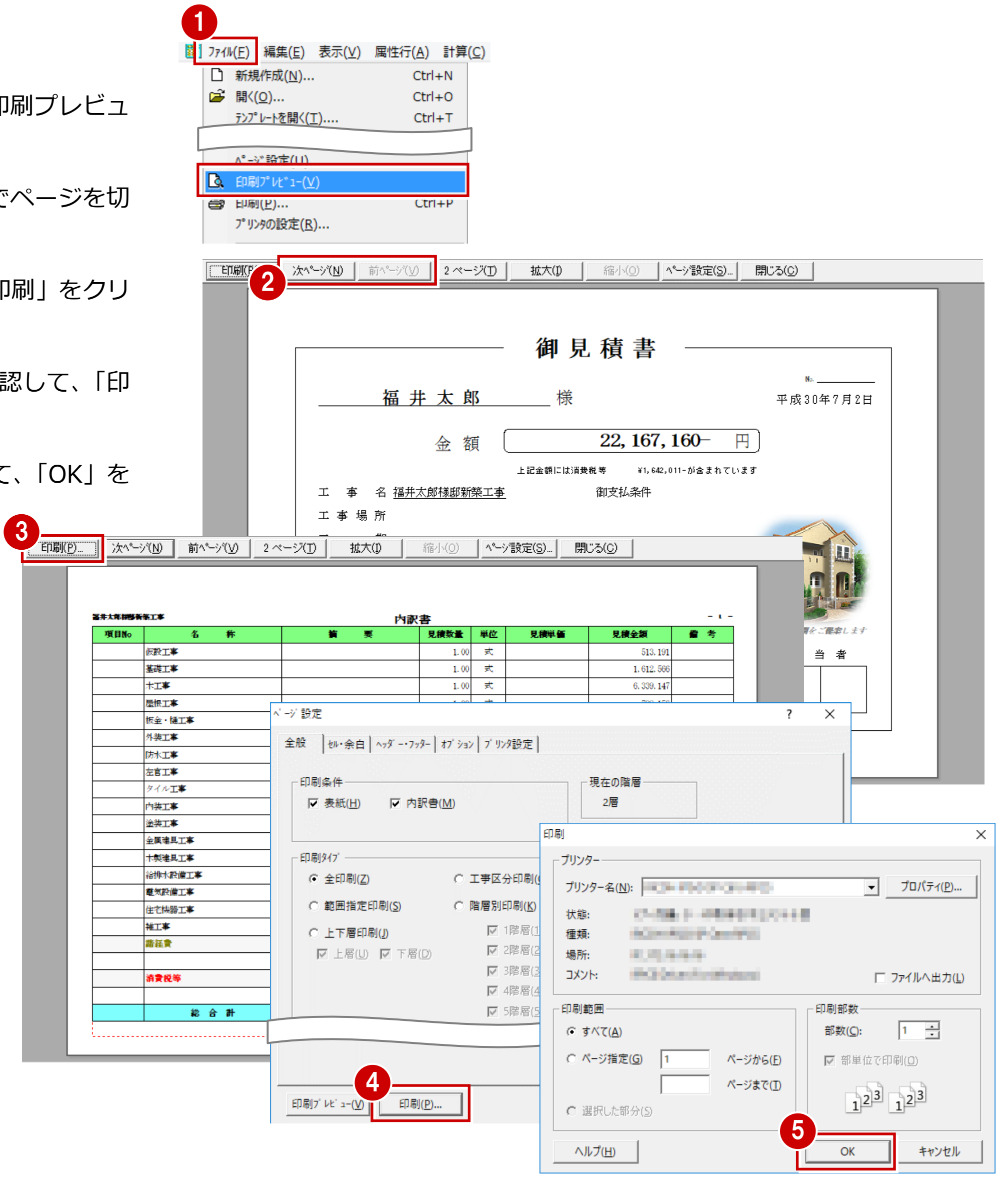
❶「ファイル」メニューから「印刷プレビュー」を選びます。

❷「次ページ」や「前ページ」でページを切り替えます。

❸ プレビューを確認したら、「印刷」をクリックします。

❹「ページ設定」ダイアログを確認して、「印刷」をクリックします。

❺「印刷」ダイアログを確認して、「OK」をクリックします。



見積データを保存する

見積データは、作成時にファイル名を付けているため、ここでは上書き保存します。

❶ ツールバーの「上書き保存」をクリックします。

※ ファイル名を変えて保存する場合は、「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を使用します。

B Excel を使って見積書を作成する

手間なし積算では、集計データ、物件情報（物件名、施主名など）、配置図のデータ（トータル面積表の延床面積）から、簡易見積書を Microsoft（マイクロソフト）製の Excel で作成できます。この見積書は、手間なし積算専用の Excel テンプレートを使用して作成します。

※ ここからの操作には、Microsoft Office Excel 2010 以降がインストールされている必要があります。
本書では、Excel 2016 を使用して解説しています。

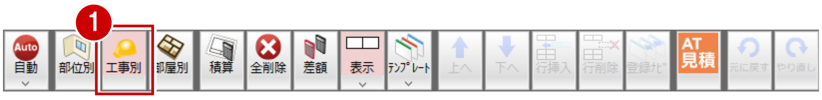
Excel 見積へ出力する

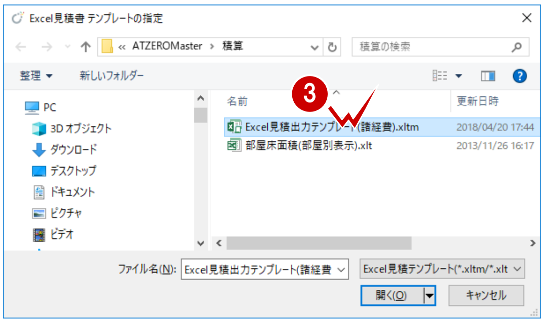
❶ 見積書を作成するモード（ここでは「工事別」）を ON にします。

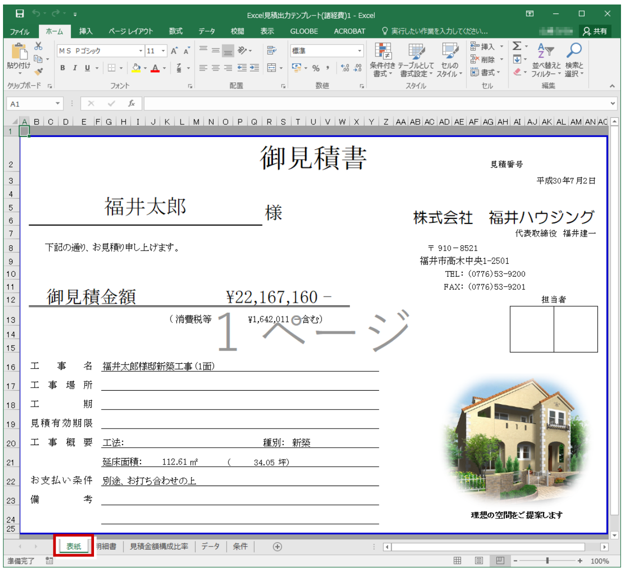
❷「ファイル」メニューから「Excel 見積書 作成」を選びます。

❸「Excel 見積出力テンプレート（諸経費）.xltm」をダブルクリックします。
Excel の見積書が開きます。

❹❺ シートを切り替えて確認します。







項目№	名称	摘要	見積数量	単位	見積単価	見積金額
	仮設工事		1.00	式		513,191
	基礎工事		1.00	式		1,612,566
	木工事		1.00	式		6,339,147
	屋根工事		1.00	式		798,156
	板金・樋工事		1.00	式		173,057
	外装工事		1.00	式		1,422,381
	防水工事		1.00	式		57,457
	左官工事		1.00	式		87,942
	タイル工事		1.00	式		273,360
	内装工事		1.00	式		551,487
	塗装工事		1.00	式		36,448
	金属建具工事		1.00	式		1,254,263
	木製建具工事		1.00	式		959,700
	給排水設備工事		1.00	式		730,720
	電気設備工事		1.00	式		992,506
	住宅機器工事		1.00	式		1,804,900
	雑工事		1.00	式		240,675
	諸経費					2,677,193
	消費税等					1,642,011

数量が 0 の項目の扱い

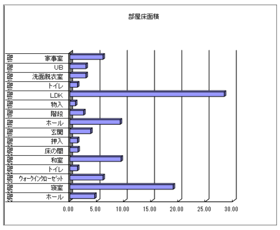
数量が 0 の項目や積算対象外の項目は、Excel には出力されません。

Excel 見積書のテンプレート

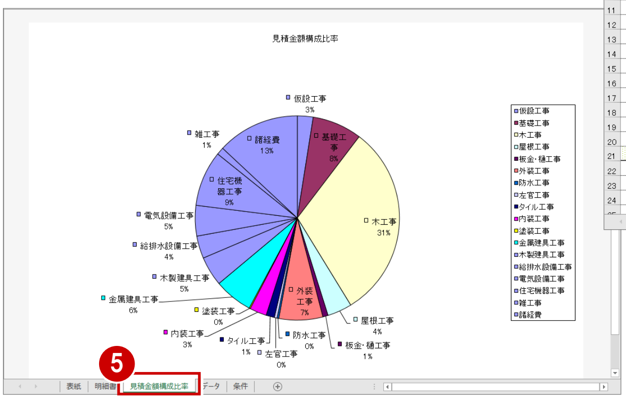
出荷時には「○:¥FcApp¥ATZERO¥ATZEROMaster¥積算」フォルダに 2 つのテンプレートが用意されています。
印刷される表紙、明細書は同じですが、作成されるグラフが異なります。

■ Excel 見積出力テンプレート（諸経費）.xltm
工事区分毎の見積金額の構成比率を示したグラフが作成されます。

■ 部屋床面積（部屋別表示）.xlt
部屋毎の床面積を示したグラフが作成されます。積算表示・部屋別表示に切り替えてから使用します。



※ 従来のテンプレート「Excel 見積出力テンプレート.xlt」は、諸経費を含むデータのとき使用できません。諸経費が OFF（⇒ P.16）のときは使用可能です。

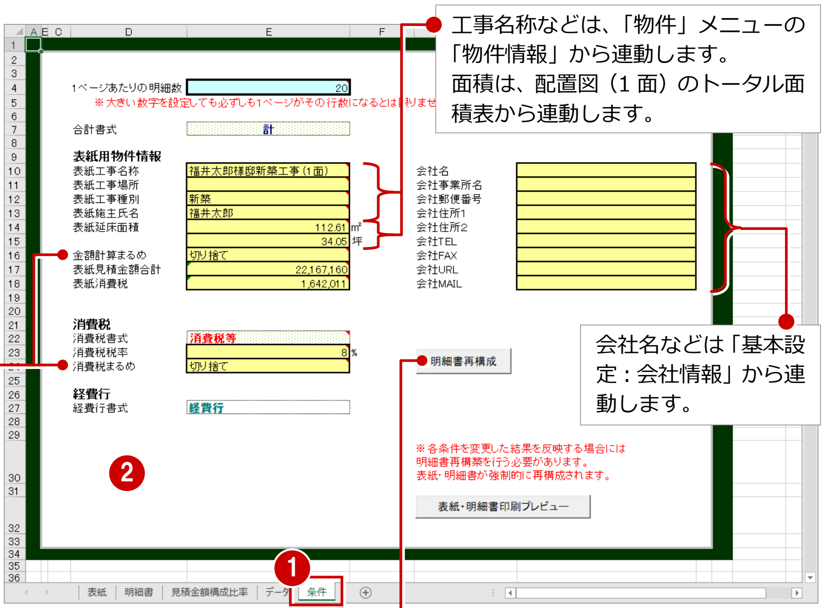


見積書の条件を確認する

❶「条件」シートをクリックします。

❷ 表紙に表示する項目、1 ページに表示する明細の数、計算まるめなどを確認します。

まるめには、手間なし積算の「専用初期設定：丸め」が連動します。
変更する場合は次の文字のみ入力します。
「四捨五入」「切り捨て」「切り上げ」
上記以外の文字が入力された場合は、まるめません。



工事名称などは、「物件」メニューの「物件情報」から連動します。
面積は、配置図（1 面）のトータル面積表から連動します。

会社名などは「基本設定：会社情報」から連動します。

「明細書再構成」をクリックすると、条件より再計算を行い、「明細書」シートが変更されます。次の場合に使用します。
・「1 ページあたりの明細数」を変更して明細書の構成を変更する場合
・「金額計算まるめ」「消費税率」「消費税まるめ」を変更して金額の再計算が必要な場合

「データ」シートについて

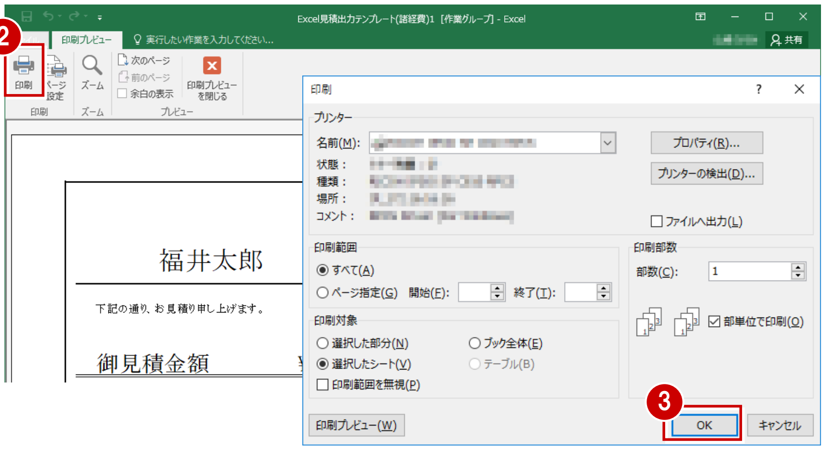
基本的に、「データ」シートのデータは編集しないことをお勧めします。セル自体の移動、行の削除などを行うと、明細書が正しく表記できなくなります。
「数量」「見積単価」セルを変更したい場合は、手間なし積算の方で修正して、再度 Excel 見積書を作成するようにしましょう。

見積書を印刷する

❶「表紙・明細書印刷プレビュー」をクリックします。

❷「印刷」をクリックします。

❸「印刷」ダイアログで、プリンタなどを設定して、「OK」をクリックします。



印刷について

「表紙・明細書印刷プレビュー」では、表紙、明細書だけを印刷できます。
見積金額構成比率を印刷するときは、Excel の「印刷」コマンドを使用します。

Excel データを保存する

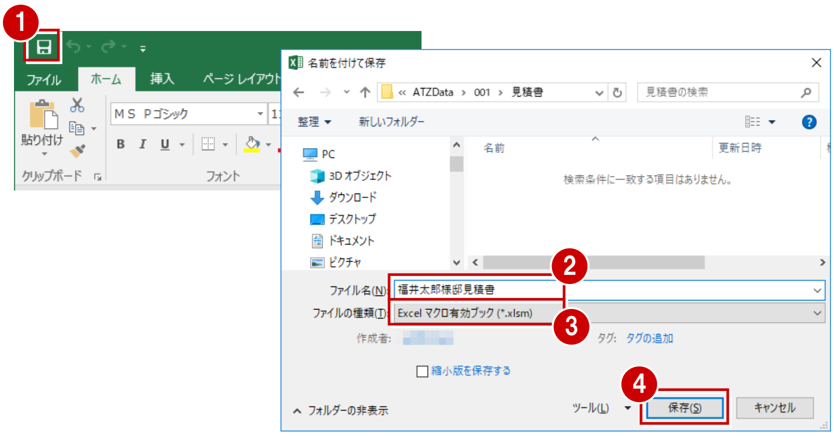
変換された Excel データは保存されていない状態なので、名前を付けて保存します。

❶「上書き保存」をクリックします。

❷「ファイル名」に任意の名称を入力します。

❸ マクロを有効にしたままデータを保存するため、「ファイルの種類」で「Excel マクロ有効ブック（*.xlsm）」を選びます。

❹「保存」をクリックします。



2 リフォーム積算

現況図をもとに計画図を作成し、計画図では新設する部材の指示、参照現況図では解体や移設などの指示を図面化することで、手間なし積算にてリフォームの積算を行うことができます。

2-1 リフォーム積算の概要

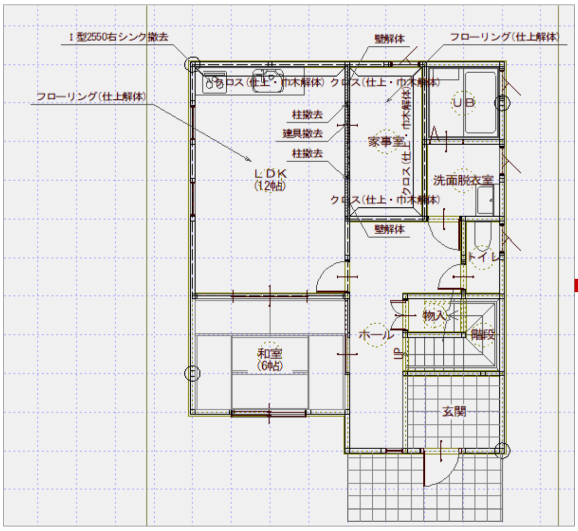
リフォーム積算の基本的な流れ

次のフロー図は、手間なし積算でリフォーム積算をおこなう場合の基本的な流れと、本マニュアルでの各項目の解説内容を示したものです。

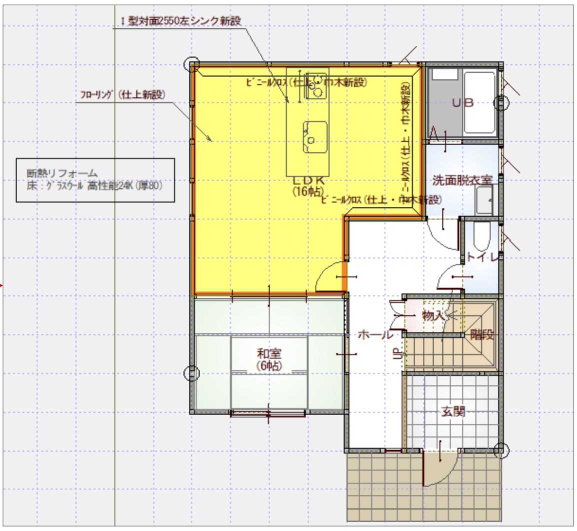
ページ		項目	解説
P.23	物件選択	計画物件の作成	現況物件を指定し、その図面を複写して計画物件を作成します。計画物件は複数作成できます。 ※ 本書では、「3_リフォーム積算（解説用）.fcbz」を使って解説します。
P.25	計画図	計画図の編集	リフォーム提案の内容で、計画図の平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図を編集します。
P.26	計画図	計画図にリフォーム指示を入力	編集した計画図に、どのような変更をおこなったかの指示を入力します。この指示が手間なし積算で集計されます。
P.28	参照現況図	参照現況図に解体指示を入力	計画物件の作成で同時に作成された参照現況図に、解体や撤去の指示を入力します。
P.30	手間なし積算	リフォーム積算	リフォーム指示や解体指示をした個所を手間なし積算で集計します。

リフォームプラン

本書では、LDK と家事室の間仕切りをなくして一部屋にし、断熱リフォームもおこなうことを想定して図面を入力します。



【リフォーム前】



【リフォーム後】

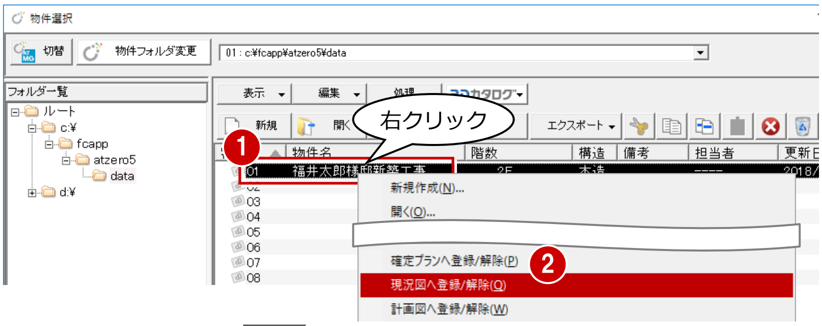
2-2 計画物件の作成

既存の物件データを現況物件として指定し、その図面を複写して計画物件を作成しましょう。

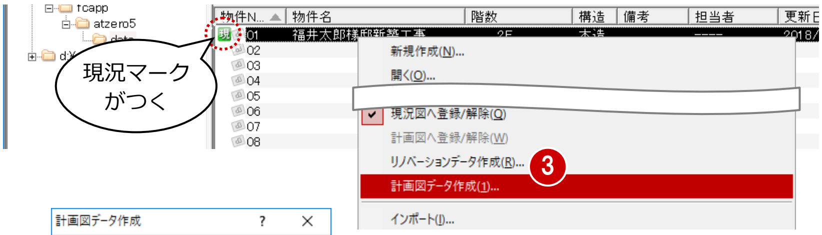
※ 解説用のデータを用意していますので、「物件選択」ダイアログでインポートしてください。
【使用データ】: 3_リフォーム積算（解説用）.fcbz

現況図を指定して計画図を作成する

1. 「物件選択」ダイアログで既存の物件を選びます。
2. 右クリックして「現況図へ登録/解除」を選びます。
   リフォームの現況図として登録され、「現」マークがつきます。



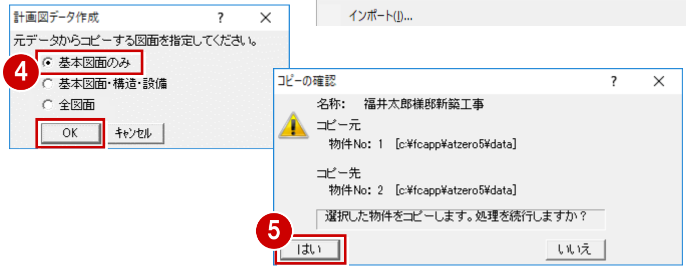
3. そのまま、右クリックして「計画図データ作成」を選びます。

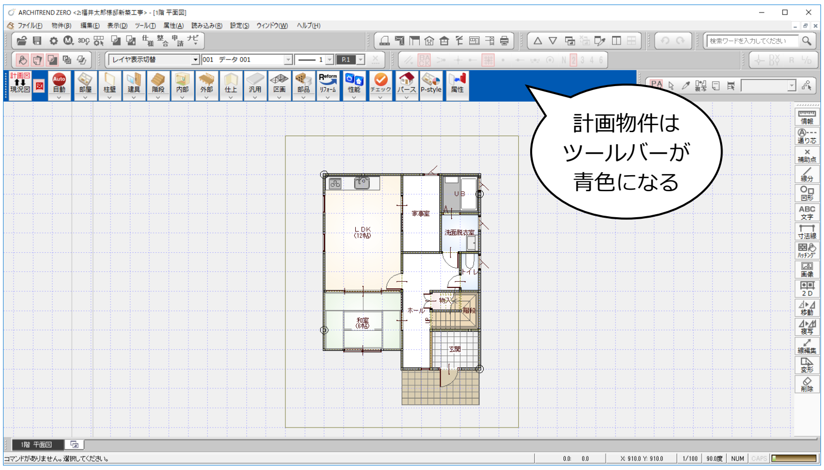


4. 現況図からコピーする図面を選びます。
   ここでは、「基本図面のみ」を選んで「OK」をクリックします。

※ 今回の物件では基本図面しか作成されていないため、どれを選んでも結果は変わりません。

5. 確認画面で「はい」を選びます。
   現況図から図面がコピーされ、計画図の1階平面図が開きます。





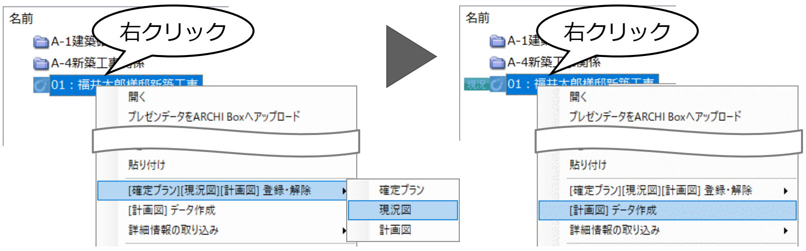
計画図を作成すると

「物件選択」ダイアログでは、計画物件に「計」マークがつきます。
計画物件は複数作成できます。

なお、現況図に登録できるのは、物件フォルダ内で1つのみです。

マネージャーで計画図を作成するには

物件データを右クリックして「[確定プラン][現況図][計画図] 登録・解除」の「現況図」を選んで、現況図に登録します。
その後、物件データを右クリックして「[計画図]データ作成」を選びます。

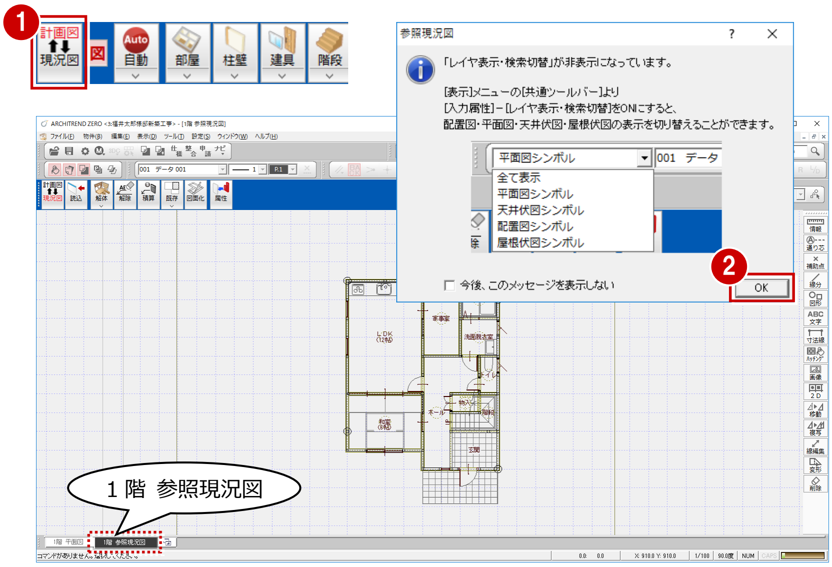


参照現況図を確認する

計画図を作成すると、同時に参照現況図も計画物件内に作成されます。
参照現況図を開いて確認してみましょう。

❶「参照現況図を開く」をクリックします。

❷ 確認画面が表示された場合は、「OK」をクリックします。



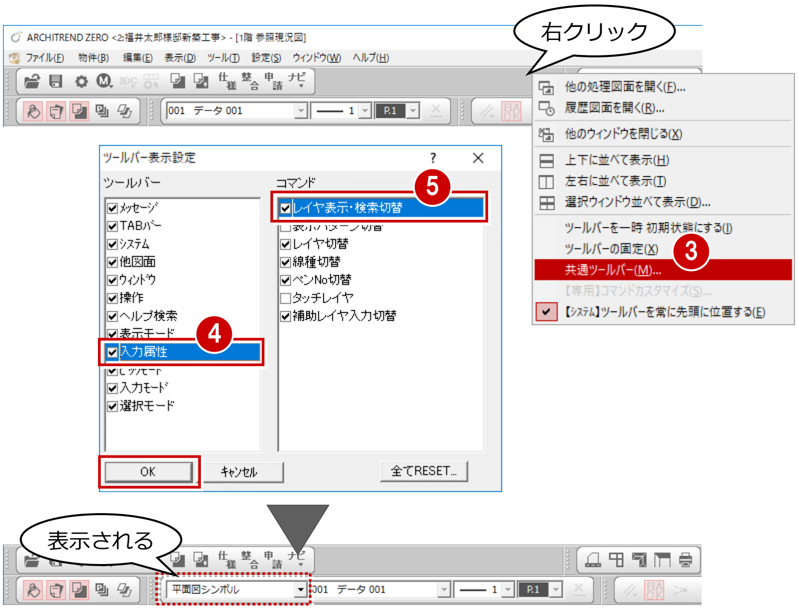
確認画面が表示された場合は、ツールバーの設定を変更しておきましょう。
後で解体指示を入力するとき、図面の切り替えに使用するコマンドを表示します。

❸ ツールバー上で右クリックして、「共通ツールバー」を選びます。

❹「ツールバー表示設定」ダイアログの左側から「入力属性」を選びます。

❺ 右側の「コマンド」から「レイヤ表示・検索切替」を ON にして、「OK」をクリックします。

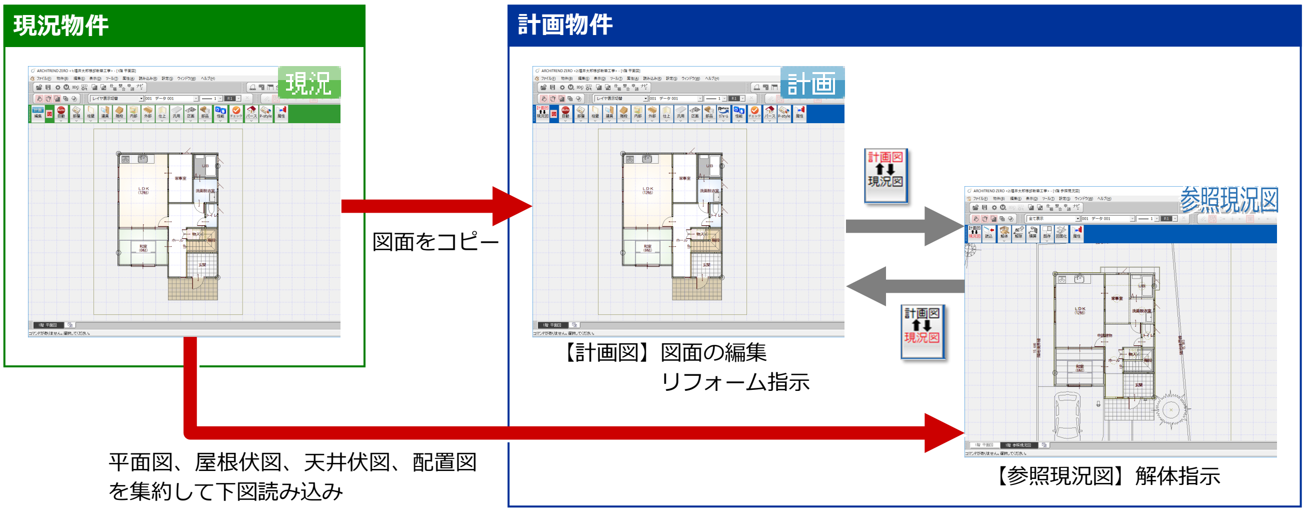
※「レイヤ表示・検索切替」で「全て表示」を選ぶと、配置図や天井伏図などのデータも読み込まれていることが確認できます。



❻「計画図を開く」をクリックして、計画図の平面図に戻しておきます。

現況図、計画図、参照現況図の関係

現況図から計画図を作成すると、指定した図面データをコピーして計画図が作成されます。
また、現況図の平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図のデータを階ごとに集約して、参照現況図も計画図の物件内に同時作成されます。
なお、参照現況図を編集しても現況図に影響はありません。



2-3 計画図の編集

ここでは、LDK と家事室の間仕切りをなくして一部屋にし、対面型のシステムキッチンを配置しましょう。

部屋を合成する

❶「対象データ選択」をクリックします。

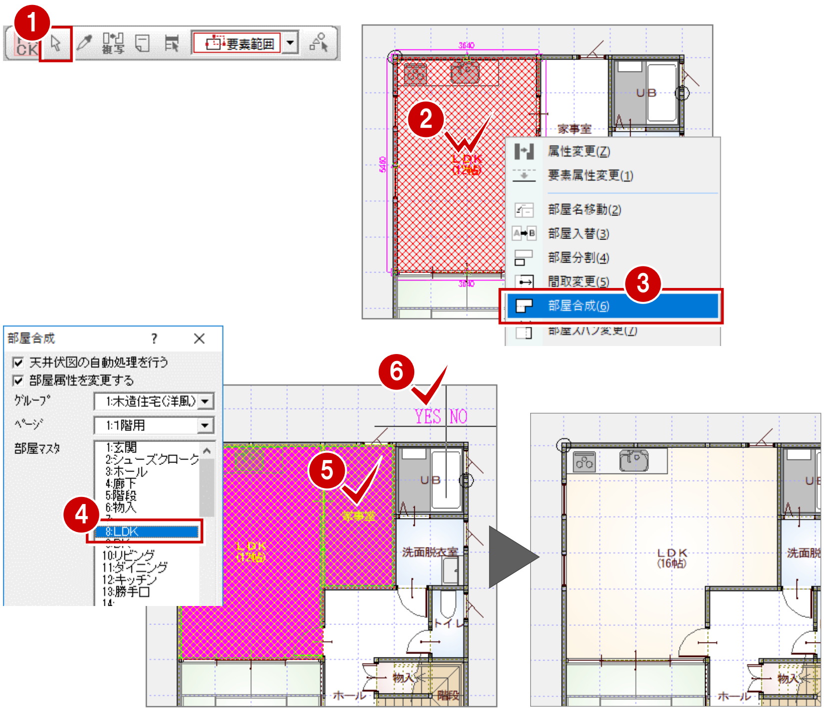
❷ LDK をダブルクリックします。

❸ コマンドコレクションから「部屋合成」を選びます。

❹「部屋合成」ダイアログで「LDK」が選ばれていることを確認します。

❺ 合成する部屋として、隣の家事室をクリックします。

❻ マウスカーソルに「YES」「NO」が表示されるので、マウスの左ボタンをクリックします。
間仕切り壁や柱、仕上、建具が削除され、一部屋に合成されます。

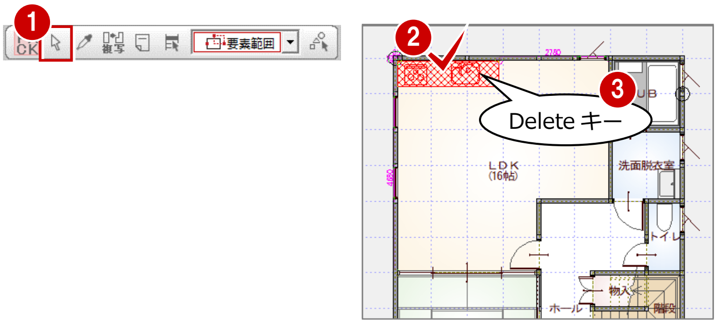


システムキッチンを配置する

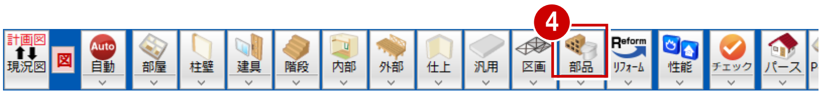
既存のシステムキッチンを削除して、対面型のシステムキッチンを配置します。

❶❷ システムキッチンを選択します。

❸ Delete キーを押します。



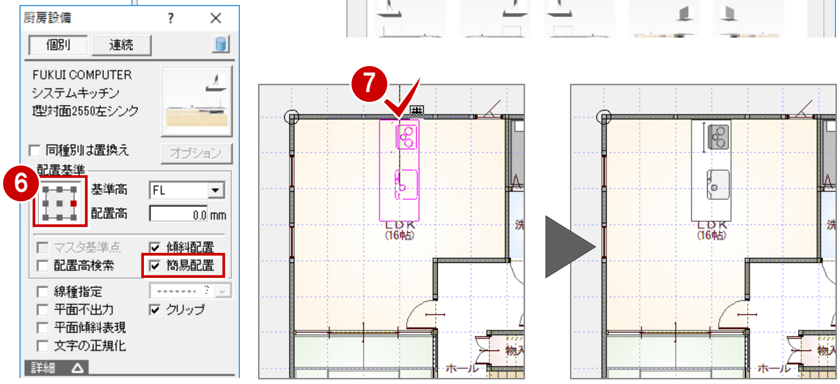
❹「部品」をクリックします。



❺「部品選択」ダイアログで「Ⅰ型対面 2550 左シンク」を選びます。

❻「厨房設備」ダイアログを次のように設定します。
「配置基準」：右中
「簡易配置」：ON

❼ 右図の位置をクリックしてシステムキッチンを配置します。



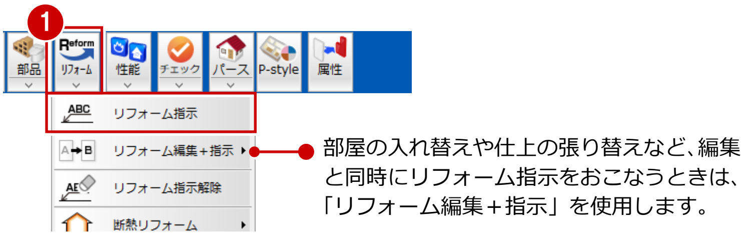
2-4 計画図にリフォーム指示を入力

どのような変更をおこなったのか、計画図の変更内容を図面に表記します。この指示が手間なし積算で集計されます。

内壁仕上のリフォーム指示をする

ここでは、家事室だった部分のクロスと巾木を張り替えることを想定して、リフォーム指示をおこなってみましょう。

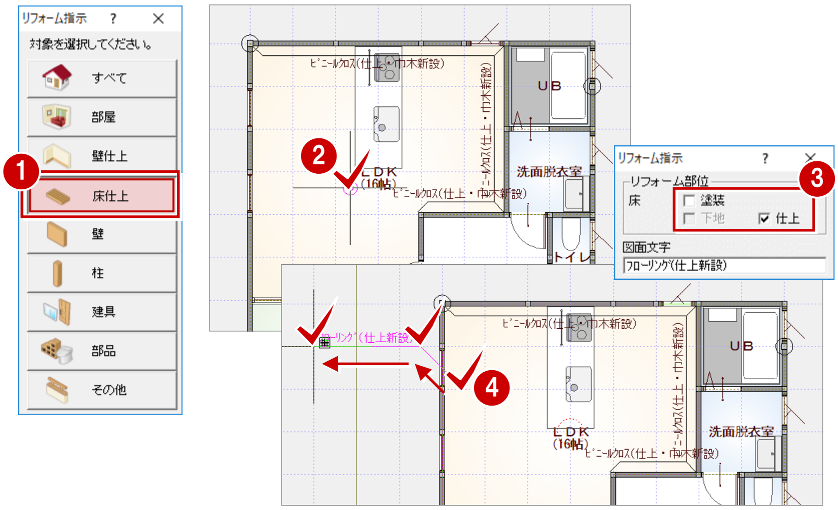
1. 「リフォーム」メニューから「リフォーム指示」を選びます。
2. パネルから「壁仕上」を選びます。
3. LDK 北側の壁の内側をクリックします。
4. 「リフォーム指示」ダイアログで「下地」のチェックをはずして「仕上」「巾木」が ON の状態にします。
5. マウスカーソルに「YES」「NO」が表示されるので、図面表記を確認して、マウスの左ボタンをクリックします。
6. 同様にして、東側と南側にもリフォーム指示を入力します。



床仕上のリフォーム指示をする

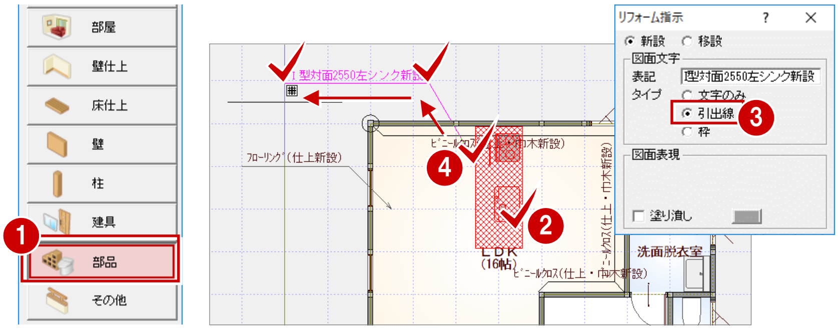
ここでは、LDK のフローリングを新しく張り替えることを想定します。

1. パネルから「床仕上」を選びます。
2. LDK をクリックします。
3. 「リフォーム指示」ダイアログで「仕上」のみが ON になっていることを確認します。
4. 引出線の開始位置、終点、文字列の方向を順にクリックします。



部品のリフォーム指示をする

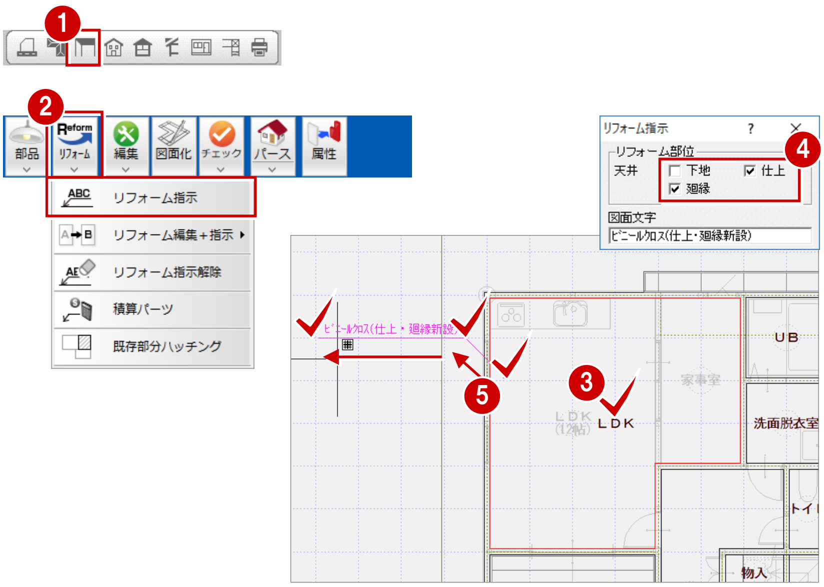
1. パネルから「部品」を選びます。
2. システムキッチンをクリックします。
3. 「リフォーム指示」ダイアログで「引出線」が ON になっていることを確認します。
4. 引出線の開始位置、終点、文字列の方向を順にクリックします。



天井仕上のリフォーム指示をする

ここでは、LDK のクロスと廻縁を張り替えることを想定します。

1. 「天井伏図オープン」をクリックして天井伏図を開きます。
2. 「リフォーム」メニューから「リフォーム指示」を選びます。
3. LDK をクリックします。
4. 「リフォーム指示」ダイアログで「下地」のチェックをはずして「仕上」「廻縁」が ON の状態にします。
5. 引出線の開始位置、終点、文字列の方向を順にクリックします。

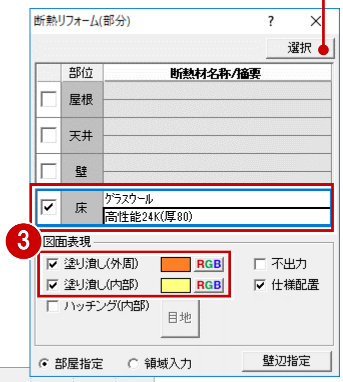


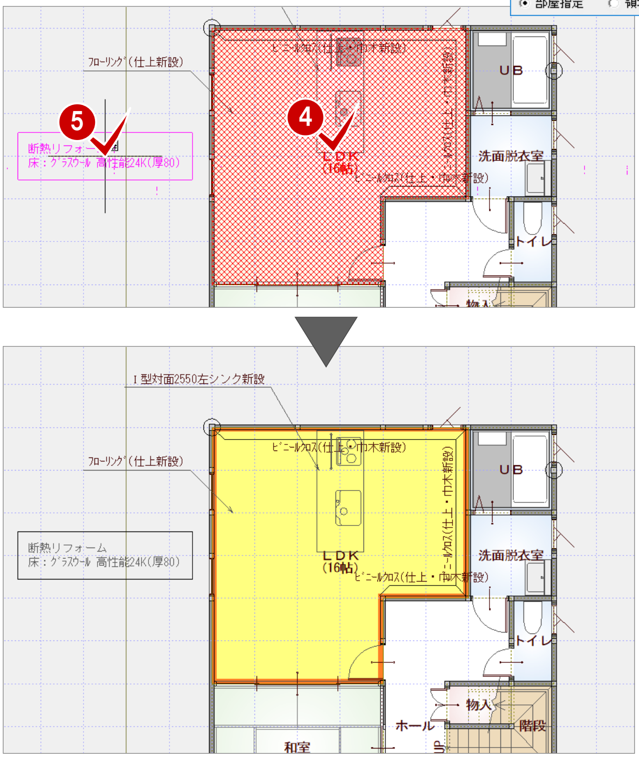
部分断熱リフォームを指示する

ここでは、LDK 全体に床断熱を施工することを想定します。

1. 「平面図オープン」をクリックして平面図を開きます。
2. 「リフォーム」メニューから「断熱リフォーム」の「部分断熱」を選びます。
3. 「断熱リフォーム（部分）」ダイアログを次のように設定します。
   「床」のみ ON
   「塗り潰し（外周）」: ON
   「塗り潰し（内部）」: ON
4. LDK をクリックします。
5. リフォーム指示の配置位置をクリックします。

断熱の仕様を変更する場合は、「選択」をクリックします。
仕様の登録は、「専用初期設定：リフォーム－断熱リフォーム」で行います。





2-5 参照現況図に解体指示を入力

参照現況図に、解体や撤去の指示を入力します。この指示が手間なし積算の解体費用に反映されます。

内壁仕上の解体指示をする

❶「参照現況図を開く」をクリックします。

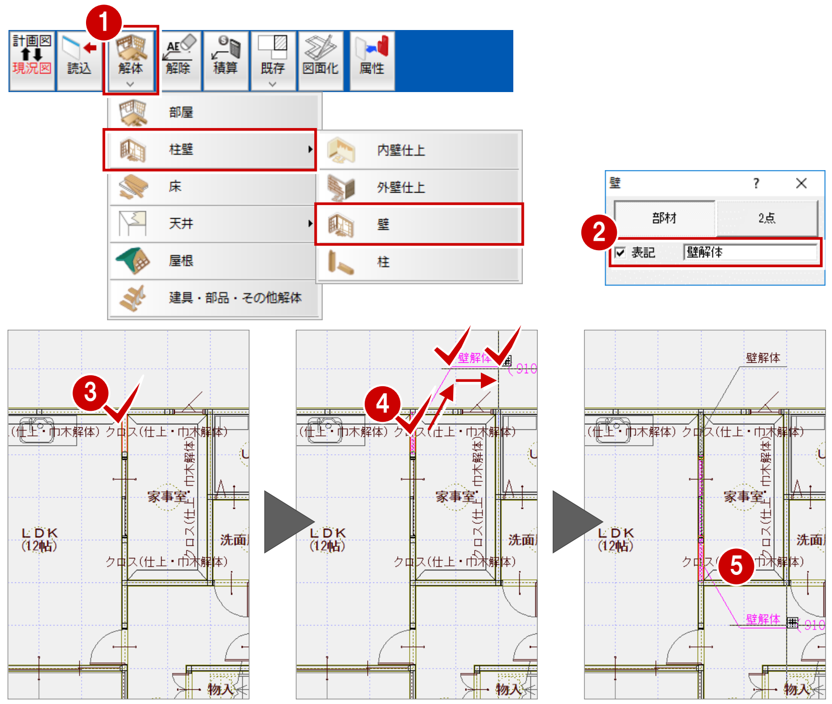
❷「解体」メニューから「柱壁」の「内壁仕上」を選びます。

❸「内壁仕上」ダイアログで「下地」のチェックをはずして「仕上」「巾木」が ON の状態にします。

❹ 既存のクロスをはがす位置をクリックします。
ここでは、家事室だった部分のクロスと巾木を張り替えるため、右図のように指定します。

柱壁の解体指示をする

LDK と家事室の間の柱と壁に解体指示を入力しましょう。



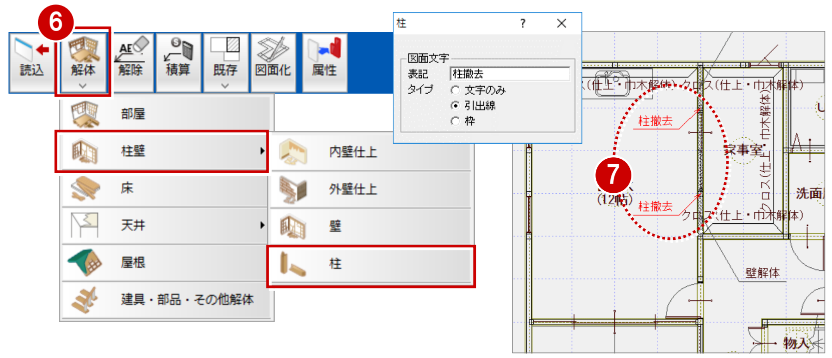
❶「解体」メニューから「柱壁」の「壁」を選びます。

❷「壁」ダイアログの「表記」を ON にして表記する文字列を確認します。

❸ 解体する壁をクリックします。

❹ 引出線の開始位置、終点、文字列の方向を順にクリックします。

❺ 同様にして、もう 1 か所の壁にも解体指示を入力します。



❻「解体」メニューから「柱壁」の「柱」を選びます。

❼ 壁と同様にして、2 か所の柱にも解体指示を入力します。

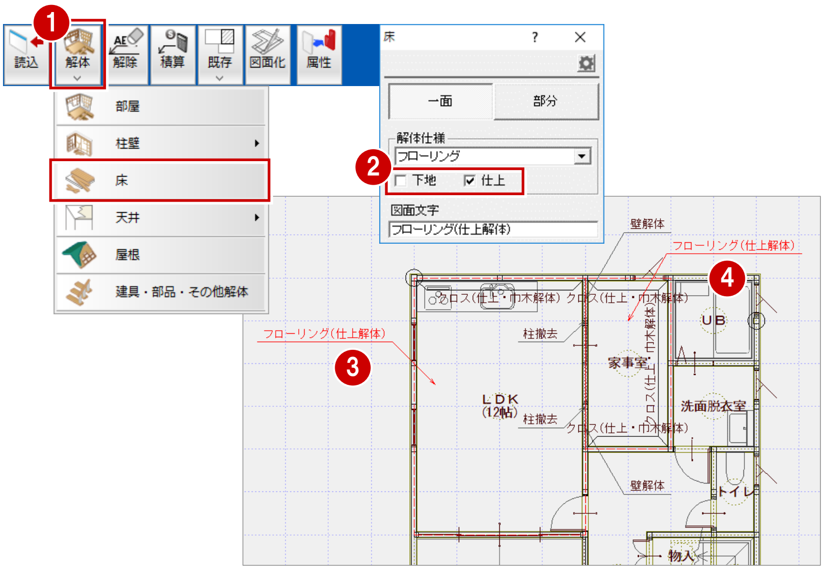
床の解体指示をする

❶「解体」メニューから「床」を選びます。

❷「床」ダイアログで「下地」のチェックをはずして「仕上」が ON の状態にします。

❸ LDK をクリックして、解体指示の引出線を入力します。

❹ 同様にして、家事室にも解体指示を入力します。



天井の解体指示をする

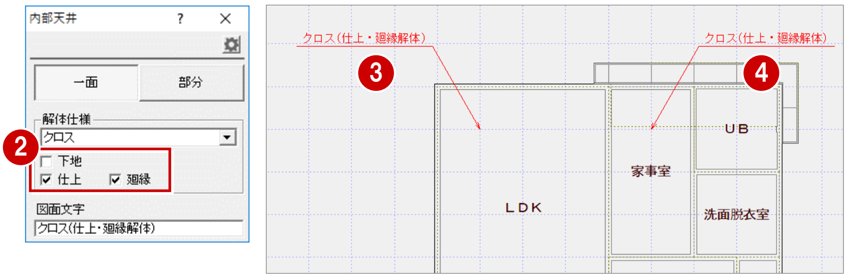
❶「解体」メニューから「天井」の「内部天井」を選びます。

❷「内部天井」ダイアログで「下地」のチェックをはずして「仕上」「廻縁」が ON の状態にします。

❸ LDK をクリックして、解体指示の引出線を入力します。

❹ 同様にして、家事室にも解体指示を入力します。

「レイヤ表示・検索切替」が「天井伏図シンボル」に切り替わります。



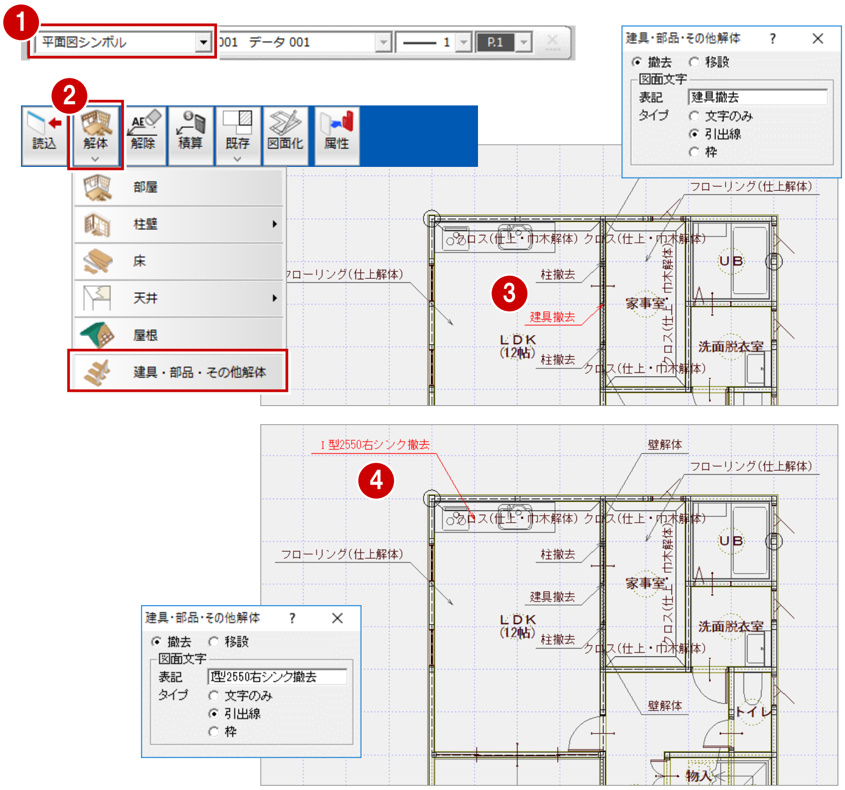
建具や部品の解体指示をする

❶「レイヤ表示・検索切替」を「平面図シンボル」に切り替えます。

❷「解体」メニューから「建具・部品・その他解体」を選びます。

❸ LDK と家事室の間の建具をクリックして、解体指示の引出線を入力します。

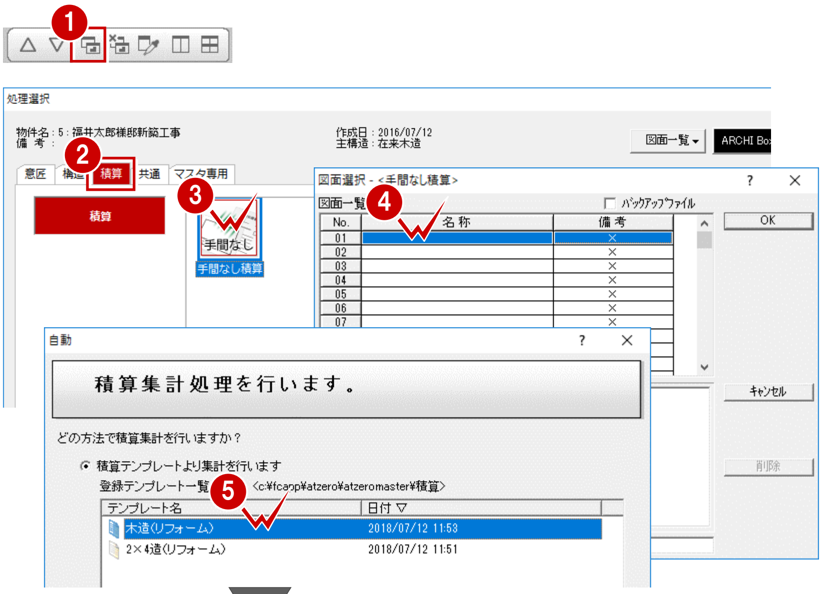
❹ 同様にして、システムキッチンにも解体指示を入力します。



2-6 リフォーム積算

リフォーム指示や解体指示をした個所を手間なし積算で集計しましょう。

手間なし積算で集計する



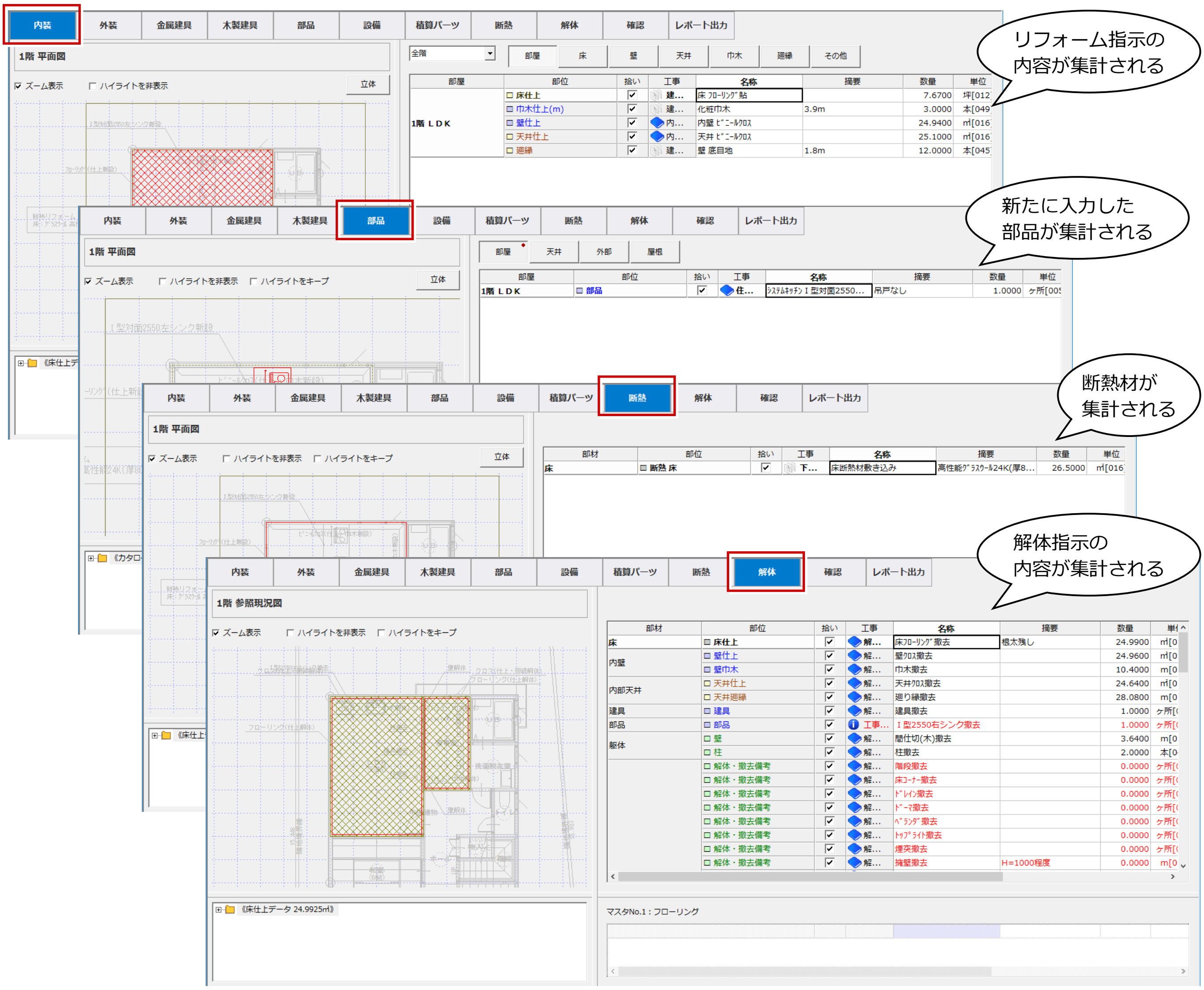
❶「他の処理図面を開く」をクリックします。

❷「処理選択」ダイアログの「積算」タブをクリックします。

❸「手間なし積算」をダブルクリックします。

❹「図面選択」ダイアログで「No.01」をダブルクリックします。

❺「自動」ダイアログで「木造（リフォーム）」をダブルクリックします。

※ 計画物件で手間なし積算を起動した場合は、リフォーム用のテンプレートが表示されます。

❻「部位別確認」に表示を切り替えて、自動集計された内容を確認しましょう。